Endeavor

NJ5000Pro

ユーザーズマニュアル

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

警告

		煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、『サポート･サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
		マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。
		電源は、交流100V以外では使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
		ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
		通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。
		異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、『サポート･サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。
		破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、『サポート･サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。
		電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
		電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。

警 告	
	本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱しないでください。 破裂などで火傷の原因となります。
	バッテリパックの端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。
	付属のACアダプタやバッテリパックの分解や改造をしないでください。 また、本機には、指定のACアダプタやバッテリパック以外は使用しないでください。 感電、火傷や、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解、改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）は、安全性や製品に関する保証はできません。
	小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。 なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
	バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
	バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。 発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。
	メモリの交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜き、本機からバッテリを取り外してください。 感電や火傷の原因となります。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。
	航空機や病院など、使用を禁止された区域では本機の電源を切るか電波を停止してください。 電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
	植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合に、Bluetooth機能および無線LAN機能をご使用になるときは、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。 電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

警告	
	医療機関の屋内でBluetooth機能および無線LAN機能をご使用になる場合は、次のことを守ってください。 ・手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。 ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。 ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。 ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。 ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
	自宅療養など医療機関以外で、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合に、Bluetooth機能および無線LAN機能をご使用になるときは、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。
	Bluetooth機能および無線LAN機能をご使用になる場合は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

⚠ 注 意	
	小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
	本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。 ・じゅうたんや布団の上には設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
	連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
	本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。 ・構内交換機（PBX） ・2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど） ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック
	付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
	ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。 低温火傷の原因になります。
	ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。

<table>
<tr><th colspan="2">注 意</th></tr>
<tr><td> </td><td>破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。</td></tr>
<tr><td> </td><td>ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。</td></tr>
<tr><td> </td><td>長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。</td></tr>
<tr><td> </td><td>メモリの交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。
火傷の危険があります。
作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。</td></tr>
<tr><td> </td><td>液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。
火傷や化学物質による被害の原因となります。
万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。</td></tr>
<tr><td> </td><td>ひざの上で長時間使用しないでください。
本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。</td></tr>
<tr><td> </td><td>光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。
内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。</td></tr>
<tr><td> </td><td>本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。
液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。</td></tr>
</table>

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。
次の注意事項は、特に指定のない限り、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20％～80％です。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破壊されることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

本機を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物（ボールペンなど）を挟んだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

▶記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD	FD
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセスランプ点灯中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD MC

何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD

シールを貼らないでください。

CD

アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD MC

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。

CD

無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

第1章　使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

1

第2章　コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本的な操作方法について説明します。

2

第3章　システムの拡張

アップグレードサービスや本機に接続できる装置について説明します。

3

第4章　BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

4

第5章　ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

5

第6章　こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

6

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

目　次

はじめに

使い始めるまでの準備

コンピュータの基本操作

システムの拡張

BIOSの設定

ソフトウェアの再インストール

こんなときは

付録

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	本書とは別のマニュアルを示します。 例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。
	参照ページを示します。
1 2	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
Ctrl	で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。 ↵ はEnterキーを表します。また、N は N み のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
Ctrl ＋ Z	＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。 この例では、Ctrl を押したまま Z を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

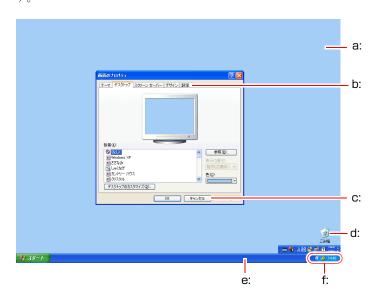
本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition

HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1KB＝1000Byteとして記載しています。

Windows XPの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

a: デスクトップ
　Windows XPが起動して、ディスプレイに表示される画面。

b: タブ

c: ボタン

d: アイコン
　デスクトップ上やタスクトレイ内の小さなイラスト。
　機能などをイラストで表示しています。

e: タスクバー

f: タスクトレイ

ボタンの記載方法

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例）スタート ：［スタート］、OK ：［OK］

Windows XPの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- **記載例**

  ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」をクリックします。

- **実際の操作**

  (1)［スタート］をクリックします。
  (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
  (3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

本製品の仕様とカスタマイズについて

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様にあわせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアルについて

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、ユーザーズマニュアル （本書）とは別に添付されている場合があります。
お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに登録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに登録されている「マニュアルびゅーわ」から閲覧

第1章
使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

ご使用の前に

▶コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認
まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。
『梱包品の確認』

⬇

安全にお使いいただくために・製品保護上の注意
本機を正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。
必ずお読みください。
 p.2 「安全にお使いいただくために」
p.8 「製品保護上の注意」

⬇

マニュアル中の表記について
本書で使用している記号や用語の表記方法について確認します。
 p.18 「マニュアル中の表記について」

⬇

本製品の仕様とカスタマイズについて
本機の仕様とカスタマイズについて確認します。
 p.22 「本製品の仕様とカスタマイズについて」

⬇

ご使用の前に
本機を使用する前に必要な情報を確認します。
 p.24 「ご使用の前に」

⬇

各部の名称と働き
各部の名称と働きを確認します。
 p.30 「各部の名称と働き」

⬇

コンピュータの設置
各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。
 p.35 「コンピュータの設置」

⬇

電源の入れ方とWindowsのセットアップ
電源を入れ、Windowsをはじめて起動したときに実行される
Windowsのセットアップを行います。
p.42 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

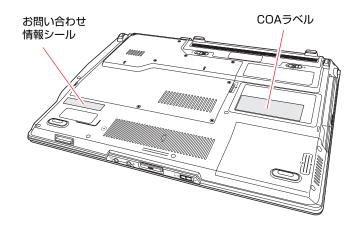
● お問い合わせ情報シール

お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』の表紙に書き写しておいてください。

● COAラベル

COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。

サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

▶本機の特長

本機の特長は、次のとおりです。

● CPU性能

インテルCore 2 Duoプロセッサを搭載しています。

● メモリ容量

最大2GBのメモリを搭載できます。

● 表示装置

15.4型WSXGA+または15.4型WUXGA液晶ディスプレイを搭載しています。
外付けディスプレイ（デジタル接続およびアナログ接続）にも表示できます。

● メモリカードスロット

メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカードに対応のスロットを装備しています。

● PCカードスロット

PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを装備しています。

● オペレーティングシステム

Windows XPをインストール済みです。

● ネットワーク機能

- 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応のLANコネクタを装備しています。
- IEEE802.11a/b/gに対応した無線LANを搭載しています。
（無線LAN搭載時）

● そのほか

- モデム機能、USB2.0機能、IEEE1394機能を搭載しています。
- セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を搭載しています。
- Bluetooth機能を搭載しています。

▶添付されているソフトウェア

本機に添付のCDや、HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によって、登録されているソフトウェアは異なります。

表中記号の見方

記号	説明
（インストール済みアイコン）	購入時には、HDDにインストールされています。
（未インストールアイコン）	購入時には、HDDにインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

Windows XPリカバリCDに登録されているソフトウェア

Windows XPリカバリCDはWindows XPを再インストールする際に使用します。

Windows XPリカバリCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	（インストール済みアイコン）

リカバリツールCDに登録されているソフトウェア

リカバリツールCDはリカバリツールを再インストールする際に使用します。

リカバリツールCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● リカバリツール HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	（インストール済みアイコン）

HDDの消去禁止領域に登録されているソフトウェア

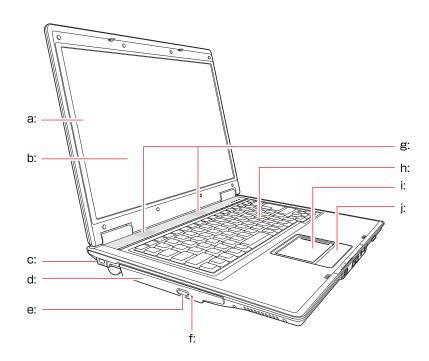
本体ドライバや本機で使用するソフトウェアは、HDDの「消去禁止領域」に登録されており、リカバリツールからインストールします。
書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載モデルの場合、リカバリツールを使用してHDDの「消去禁止領域」に登録されている本体ドライバやソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。
p.254 「バックアップCDの作成方法」

HDDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● インテル945PMチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。	（インストール済みアイコン）
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	（インストール済みアイコン）
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	（インストール済みアイコン）
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	（インストール済みアイコン）

HDDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。	
● 無線LANドライバ（無線LAN搭載時のみ） 無線LANを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。	
● インスタントキードライバ Fn キーと組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。	
● セキュリティチップドライバ セキュリティチップを使用するためのドライバです。	
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
● Microsoft .NET Framework .Net Frameworkの開発環境で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。	
● Windows Media Player 10 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。	
● Liquid View アイコンや文字などを拡大して表示するためのソフトウェアです。	
● Liquid Surf Internet Explorerの表示を見やすくするためのソフトウェアです。	
● Bluetoothドライバ Bluetoothを使用するためのドライバです。	
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
● Norton AntiVirus コンピュータウィルスを自動的に検出、駆除するウィルス対策ソフトウェアです。	
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。	
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。	

HDDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
● PhishWall フィッシング対策ソフトウェアです。	
● Hotkeyユーティリティ インスタントキーにアプリケーションを割り当てるためのユーティリティです。	
● マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	
● Nero 7 Essentials 光ディスクドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。	
● Win DVD DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。	

各部の名称と働き

正面・左側面

a: **LCDユニット**
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

b: **LCD画面**
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: **セキュリティロックスロット**
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を接続します（ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています）。

d: **光ディスクドライブ**
CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行うことができます。

e: **イジェクトボタン***
ディスクトレイを開けるときに押します。

f: **イジェクトホール***
ディスクトレイが開かなくなった場合に使用します。

g: **内蔵スピーカ**
警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

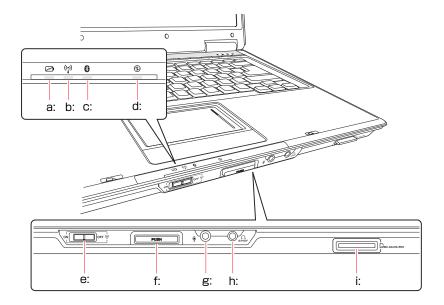
h: **キーボード**
文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

i: **タッチパッド**
指を軽く乗せて動作することにより、画面上のポインタを操作します。

j: **クリックボタン**
マウスの左右のボタンに相当します。

* 位置はお使いの光ディスクドライブによって異なります。光ディスクドライブのPDFマニュアルをご覧ください。
PDFマニュアルは、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」からご覧になれます。
p.51 「インフォメーションメニューを使う」

1

前面

a: バッテリ充電ランプ

バッテリの充電状態を示します。

点　灯：充電中

消　灯：満充電

b: 無線LAN状態ランプ （無線LAN搭載時のみ機能）

無線LAN有効時に点灯します。購入時、無線LANは無効に設定されています。

c: Bluetooth状態ランプ

Bluetoothを有効に設定すると、緑色に点灯します。

d: 電源ランプ

電源状態を示します。

緑点灯：通常モード

緑点滅：スタンバイモード

消　灯：電源切断時または休止状態

e: 無線LANスイッチ （無線LAN搭載時のみ機能）

無線LANのON/OFFを切り替えます。

f: LCDラッチ

LCDユニットを開閉します。

g: マイク入力コネクタ

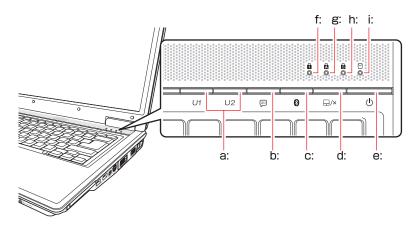
マイクを接続します。

h: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ S/PDIF

スピーカ、ヘッドホンや光デジタルオーディオ機器（MDデッキなど）と接続して、本機の音声を出力します。

i: メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO

メモリカードをセットし、データの読み出しや書き込みなどを行います。

インスタントキー／電源スイッチ／ステータス表示ランプ

a: U1キー /U2キー
割り当てたアプリケーションを起動します。
p.79 「U1、U2キーを割り当てる」

b: インフォメーションキー
インフォメーションメニューを起動します。

c: Bluetoothキー
Bluetooth機能のON/OFFを切り替えます。キーを押すたびにON/OFFが切り替わります。

d: タッチパッドキー/×
タッチパッドの有効/無効を切り替えます。キーを押すたびに、有効/無効が切り替わります。

e: 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用します。

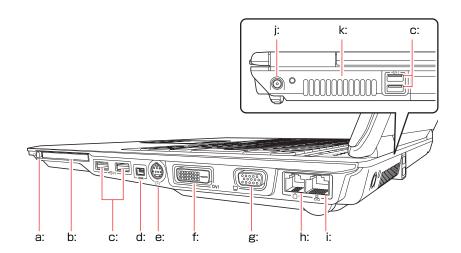
f: Num Lockランプ
Num Lockキーの設定状態を表示します。設定をONにすると緑色に点灯し、数値キーモードで入力できます。

g: Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。設定をONにすると緑色に点灯します。

h: Scroll Lockランプ
Scroll Lockキーの設定状態を表示します。

i: アクセスランプ
HDDや光ディスクドライブへのアクセス中に緑色に点灯します。

アクセスランプが点灯しているときに電源を切ったり、コンピュータを再起動しないでください。データが破損するおそれがあります。

▶右側面・背面

a: PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

b: PCカードスロット
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットして使用します。

c: USBコネクタ 2.0
USB2.0対応機器を接続します。

d: IEEE1394コネクタ（4ピン）1394
IEEE1394機器を接続します。

e: S-ビデオ出力端子
テレビのS端子と接続して、本機の画像を表示します。

f: DVI-Dコネクタ DVI
DVI-D入力端子を装備している外付けディスプレイとDVI-D（デジタル）ケーブルで接続します。
DVI-I（アナログ・デジタル両用）ケーブルでは接続できません。

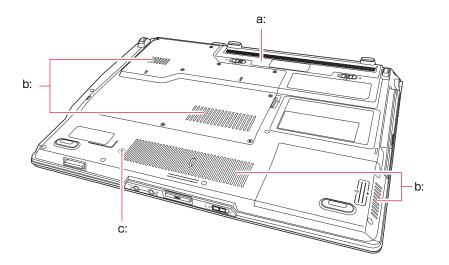
g: VGAコネクタ
VGA入力端子を装備している外付けディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。

h: モデムコネクタ
電話回線と接続します。

i: LANコネクタ
ネットワークと接続します。

j: ACアダプタコネクタ DC IN
付属のACアダプタを接続します。

k: 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

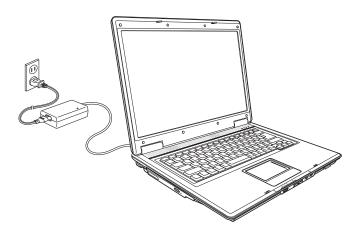
▶底面

a: バッテリパック
付属のバッテリパックを装着します。

b: 通風孔
コンピュータ内部に外気を取り入れます。

c: リセットホール ▶●◀
コンピュータを強制終了させるときに使用します。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ終了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。

1

設置における注意

注意

- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

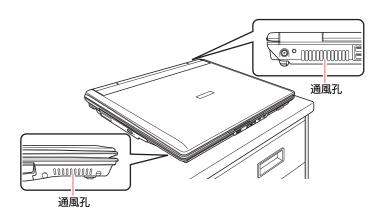
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

注意

各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

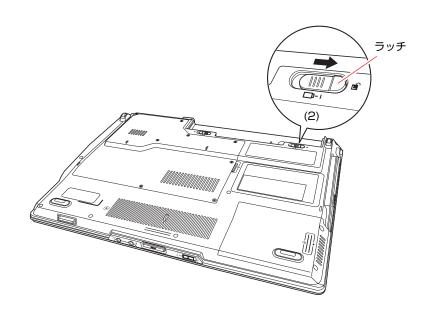
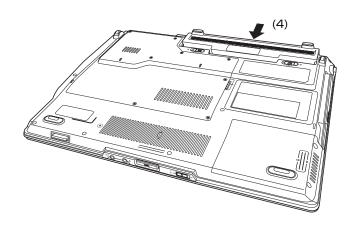
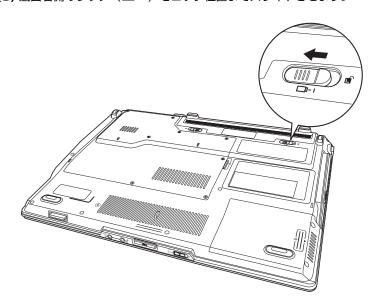
設置する

1　本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。

背面や側面の通風孔をふさがないようにしてください。

バッテリパックを装着する

2　バッテリパックを装着します。

(1) 本機の底面部を上にして置きます。

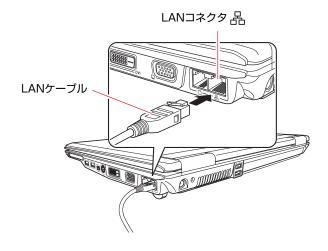
(2) 底面右側のラッチ（　）をロック解除位置（　）までスライドさせます。

(3) 下図のとおりバッテリパックを本機にあわせます。
(4) バッテリパックを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。
バッテリパックが固定されます。

(5) 底面右側のラッチ（□-I）をロック位置までスライドさせます。

出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。本機をバッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.60「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

ネットワークへ接続する

3 ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルでネットワークと接続します。

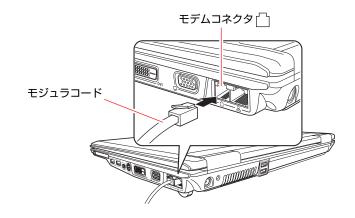
市販のLANケーブルをLANコネクタ（ 品 ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。

電話回線に接続する

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱して火災の原因となります。
- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

4 **FAXモデム機能を使用する場合は、電話回線への接続を行います。**

(1) 付属のモジュラコードをモデムコネクタ（ ）に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

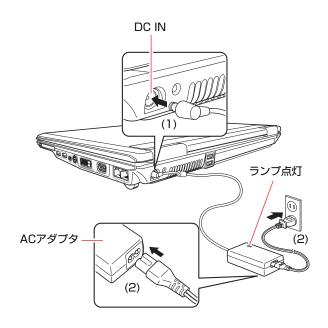
(2) モジュラコードのもう一端を電話回線に差し込みます。

ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

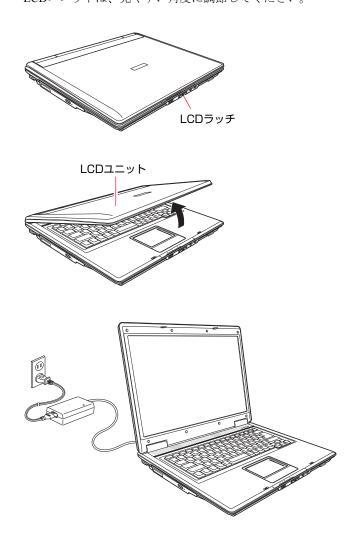
5 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

LCDユニットを開ける

6　前面のLCDラッチを奥に押して、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。

これでコンピュータの設置は終了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、コンピュータを購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。

コンピュータの電源を入れる

↓

Windowsのセットアップ作業を行う

↓

Windowsのセットアップ作業終了後に必要な作業を行う

↓

Windows使用時の確認事項をよく読む

↓

Windowsが使用できるようになる

▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● ポインタを動かす

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● ボタンをクリックする

(1) 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

(2) 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

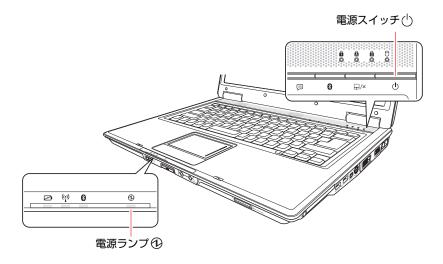
この動作を「クリック」と言います。

ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1 電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ（⏻）が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。

2 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

次の調節をして画面を見やすくします。

- **角度**
  LCDユニットの角度を調節します。
- **画面の明るさ**
  Fn＋F5（☀）：暗くなります。
  Fn＋F6（☼）：明るくなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

☞ p.45 「Windowsのセットアップ」

Windowsのセットアップ

Windows XPのセットアップは、次の手順で行います。

1　電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

セットアップを続行するには、［次へ］をクリックします。

使用許諾契約

画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
※「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。

p.47「セットアップ中に入力する項目について」

パスワードの設定

Windows XP Professionalをお使いの場合は、Administratorのパスワードを入力します。

p.47「セットアップ中に入力する項目について」

インターネットへの接続

ここでは接続を行いませんので［省略］をクリックします。

ユーザー登録

「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、［次へ］をクリックします。
このユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは当社で行っていますので、ユーザー登録の必要はありません。

コンピュータを使用するユーザーの指定

ここで入力するユーザー名には、コンピュータの管理者と同等の権限が与えられます。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

p.47「セットアップ中に入力する項目について」

セットアップの完了

設定が完了しました。［完了］をクリックするとコンピュータが再起動します。

2 **Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。**

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると、下記の画面が表示されます。

＜壁紙は予告なく変更する場合があります＞

これでWindows XPのセットアップは終了です。
続けて、p.48 「セットアップ終了後の作業」を行います。

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）について

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、［スタート］－「ファイル名を指定して実行」－「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
- 当社より提供された Windows XP（購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「Windows XP リカバリ CD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な項目について記載しています。入力の際に参考にしてください。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

- **ネットワークに接続しない場合**

  セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

- **ネットワークに接続する場合**

  ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。

● パスワード（Windows XP Professionalのみ）

本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題はありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」（アカウント）のパスワードです。「Administrator」（アカウント）でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

● ユーザー名

ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で使用することができます。

「Administrator」（アカウント）について

「Administrator」（アカウント）とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

▶セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセットアップが終了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。画面にしたがって設定を行ってください。

ウイルス対策ソフトウェアのセットアップ

本機には、コンピュータウイルスを検出し、駆除するためのウイルス対策ソフトウェア「Norton AntiVirus」が添付されています。
購入時、本機に「Norton AntiVirus」はインストールされていません。Windows のセットアップ終了後、初期設定ツールの画面にしたがってインストールを行ってください。インストール方法は、本機に添付の『ウイルス対策ソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のウイルス対策ソフトウェアをお使いの場合

市販のウイルス対策ソフトウェアをお使いになる場合は、本機に添付の「Norton AntiVirus」のセットアップを中止し、アンインストールをしてください。本機に添付の「Norton AntiVirus」のアンインストール方法については、『ウイルス対策ソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）や、無線LAN機能（無線LAN搭載時のみ）を使用する場合は、ネットワーク接続に関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

p.128 「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.129 「無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）」

FAXモデムの設定

FAXモデムを使用してインターネットへ接続する場合は、設定を行います。

p.141 「インターネットに接続するには」
p.147 「FAXモデムを使う」

Windows Updateを行う

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに「Windows Update」を行ってください。「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。

購入時、「Windows Update」は定期的に実行されるよう設定されていますが、はじめてインターネットに接続する場合は、手動で「Windows Update」を行ってください。

p.144 「Windows Update」

Bluetoothドライバのインストール

Bluetoothドライバをインストールすると、Bluetooth機能を使用して無線通信を行うことができます。購入時にはBluetoothドライバはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.209 「Bluetoothドライバのインストール」

Adobe Readerのセットアップ

PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアAdobe Readerのセットアップを行います。セットアップ方法は、次をご覧ください。

p.210 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」

Hotkeyユーティリティのインストール

Hotkeyユーティリティをインストールすると、インスタントキーにお好きなアプリケーションを割り当てることができます。購入時にはHotkeyユーティリティはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

p.79 「U1、U2キーを割り当てる」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。
Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップ終了後にコンピュータの電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- **電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。**
  Windowsが省電力モードに移行すると、コンピュータが動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意してください。
  p.159 「省電力機能を使う」

- **電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる。**
  電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

- **周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。**
  コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB 記憶装置を取り外した状態で行い、Windows 起動後に接続してください。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または音が大きすぎたり小さすぎたりする場合には、音量を調節します。
次のキーを操作してください。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除される。
Fn ＋ F11	音量が小さくなる。
Fn ＋ F12	音量が大きくなる。

▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」は次の方法で起動します。

● インフォメーションキー（💬）を押す。

p.79 「インスタントキー」

● デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックする。

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。

マニュアルびゅーわをご使用の前に

はじめて「マニュアルびゅーわ」を起動する場合は、起動前に「Adobe Reader」のセットアップを行ってください。

p.210 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」

インフォメーションメニューの項目

「インフォメーションメニュー」には、次の6つの項目があります。

● マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。
この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」には、コンピュータに関するちょっと便利で役立つ情報を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.219 「困ったときに」

● ユーザーサポートページ（Web）

インターネットに接続できる環境の場合、Internet Explorerを起動して当社ユーザーサポートページに接続します。ユーザーサポートページでは、技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。ドライバやBIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

p.256 「電子マニュアルのダウンロード」

● サポート情報検索（Web）

インターネットに接続できる環境の場合、Internet Explorerを起動して当社のサポート情報検索ページに接続します。サポート情報検索ページでは、「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

● トラブルが解決しなかったら
マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。
お問い合わせ先やメールサポートの方法などを掲載しています。

▶復元ポイントを作成する

「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」機能を使用して、作成しておいた「復元ポイント」までシステムの状態を戻すことができます。
「復元ポイント」は通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。「復元ポイント」の作成方法は次をご覧ください。
p.245 「復元ポイントを手動で作成する」

▶セキュリティ対策を行う

コンピュータを外部と接続することで高まる危険から、コンピュータを守るための設定や確認を行います。
インターネットなどに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。
p.144 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、コンピュータの電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。
p.163 「省電力モードから復帰する」

▶Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

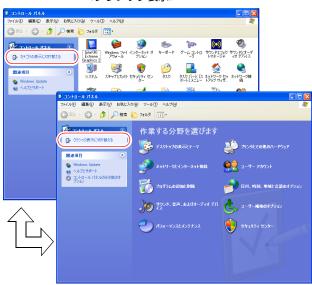
▶コントロールパネルの表示

コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- 「カテゴリの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定)。
- 「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞

＜カテゴリの表示＞

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。

- 電源を切って、もう一度入れなおす場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

▶Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。

1 ［スタート］－［終了オプション］をクリックします。

2 「コンピュータの電源を切る」画面で［電源を切る］をクリックします。

Windowsが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。

3 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、［いいえ］をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってから、電源を切ってください。

▶再起動

電源が入っている状態で、コンピュータを起動しなおすことを「再起動」といいます。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

［スタート］－「終了オプション」－「再起動」をクリック

次のような場合には、コンピュータを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、コンピュータの電源を切り、しばらくしてから再度電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

アプリケーションやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップといいます。
ハングアップした場合は、強制終了を行います。強制終了の方法は、アプリケーションの場合とWindowsの場合で異なります。

アプリケーションの強制終了

アプリケーションの強制終了は、次の手順で行います。

1 **Ctrl＋Alt＋Deleteを押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。**

2 **「アプリケーション」タブからハングアップしているアプリケーションを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

3 **「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

Windowsの強制終了

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、Windowsを強制終了します。

コンピュータの電源スイッチを押す

コンピュータの電源が切れないときは...

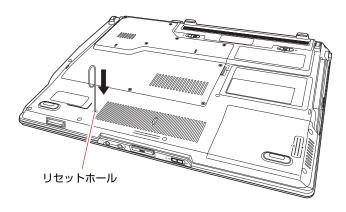
コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホールでの強制終了

本機底面にあるリセットホールを使用して、本機を強制終了することもできます。リセットホールは、Windowsの強制終了でも終了できない場合に使用してください。

1　本機底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホール（▶●◀）に先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。

第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使い方など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックで使用することができます。

- ACアダプタや、バッテリパックの分解や改造をしないでください。また、本機には、指定のACアダプタやバッテリパック以外は使用しないでください。感電、火傷や、化学物質による被害の原因となります。
当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解、改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理を除く）は、安定性や製品に関する保証はできません。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックは指定されている以外の充電方法で充電しないでください。発熱、発火や液漏れによる被害の原因となります。

- 付属の AC アダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

- バッテリパックで使用しているときは、本機に電源が入っている状態でもACアダプタを抜き差しすることができますが、動作中はなるべくACアダプタを抜かないでください。電源が切れている状態で抜いてください。
- ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。
- AC アダプタを長時間接続して使用すると、AC アダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

ACアダプタの接続方法は、p.40 「ACアダプタを接続する」をご覧ください。

バッテリパック使用時の注意

バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリをセットすれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。

次の注意事項を確認して、バッテリを正しくお使いください。

- 省電力モードのまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力モードに入っているときも電力が消費されています。
  p.159「省電力機能を使う」
- バッテリは本機の電源を切っていても自然放電によって電力が消費されています。長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリのみで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリは温度が10～30℃の環境で使用すると使用時間や寿命を延ばすことができます。10℃以下の場所に放置していたバッテリは性能が低下しています。10～30℃の温度範囲の場所でしばらく慣らしてから使用することをおすすめします。
- バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。バッテリが急に終わって困らないようにバッテリ使用後は常に充電をすることをおすすめします。
  それでも正しく表示されない場合は、バッテリのリフレッシュを行ってください。
  p.66「バッテリのリフレッシュ方法」
- 本機の内部にホコリが入るのを防ぐために、ACアダプタを接続して使用するときも、バッテリパックはセットした状態で使用することをおすすめします。
- バッテリを長期間使用しないと、過放電になる可能性があります。過放電になると、バッテリ寿命が短くなったり、充電ができなくなったりします。過放電にならないように、予備のバッテリも含めて定期的に充電をしてください。少なくとも半年に1回、バッテリ容量の40パーセント程度の充電をすることをおすすめします。

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は次のとおりです。ただし本機のシステム構成、使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間（満充電の場合）：連続約3.0時間*
*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力モードに移行したりCPUパフォーマンスなどを調整して消費電力を抑えると使用可能時間を延ばすことができます。

p.159 「省電力機能を使う」
p.166 「スピードステップ機能」

▶バッテリの充電

ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。
バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は安全のためにACアダプタを外しておきます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	点滅
充電中	点灯
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

コンピュータの動作状態	充電時間
電源切断時	約3時間
電源が入っている状態	約3時間*

*コンピュータの使用状況により差があります。

温度条件について

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。
温度が10～30℃の環境で充電すると、最も効率のよい充電ができます。

▶バッテリ残量の確認

バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。

p.66「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

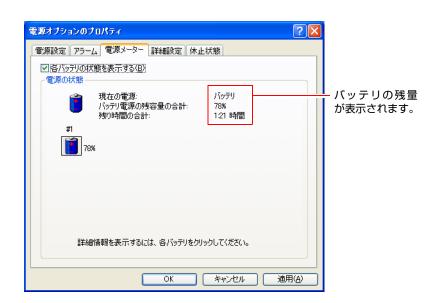
本機をバッテリだけで使用している場合、次の2とおりの方法でバッテリ残量を確認することができます。

● タスクトレイの「バッテリ」アイコンの上にマウスポインタをあわせる。

バッテリアイコン

● プロパティ画面を開いて確認する。

[スタート] －「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源メーター」タブ

バッテリの残量が表示されます。

バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

バッテリ残量が少なくなると、本機は次のように通知（警告）します。

バッテリ低下を通知する設定は、p.65「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

対処方法

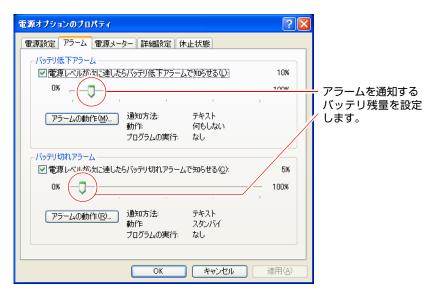
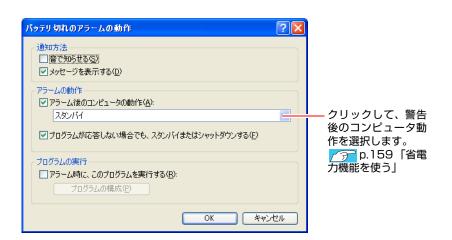
バッテリ低下のアラームが通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

- **ACアダプタを接続する**
  電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電ランプ（　）が点灯します。
- **電源を切る**
  作業中のデータをHDDなどに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を次のプロパティ画面から変更できます。

[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「アラーム」タブ

［アラームの動作］をクリックすると、下記の画面が表示されます。バッテリ低下やバッテリ切れのアラームの動作を設定できます。

▶バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。
満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下するような場合は、バッテリのリフレッシュを行ってみてください。

バッテリのリフレッシュ方法

バッテリのリフレッシュは、次の手順で行います。
バッテリのリフレッシュには数時間かかります。

1 **AC アダプタが接続されていることを確認します。**

2 **コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。**

p.181 「BIOS Setupユーティリティの起動」

3 **「Power」メニュー画面－「Start Battery Calibration」を選択し、[↵]を押すと「Battery Calibration Utility」が起動します。**

4 **画面のメッセージの最終行に「It is charging the battery, please wait」と表示されたら、バッテリの充電が開始されます。**

バッテリを完全に充電するまで、最大で約3.0時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押してコンピュータの電源を切ります。

5 **バッテリが完全に充電され、画面のメッセージの最終行に「Please remove AC adapter.」と表示されたら、AC アダプタを抜いてそのまま放置します。**

画面のメッセージの最終行に「PLEASE LEAVE THE BATTERY RUNNING OUT OF POWER.」と表示されて、バッテリの放電が開始されます。
バッテリが完全に放電するまで、最大で約1.5時間かかります。
途中で中止したい場合は、電源スイッチを押してコンピュータの電源を切ります。

6 **バッテリの放電が完了すると、自動的に電源が切れます。**

これでバッテリのリフレッシュは終了です。
バッテリの充電をする場合は、AC アダプタを接続してください。

リフレッシュしても改善されないときは

バッテリは、消耗品です。バッテリのリフレッシュを行っても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。当社純正の新しいバッテリに交換してください。

▶バッテリの交換

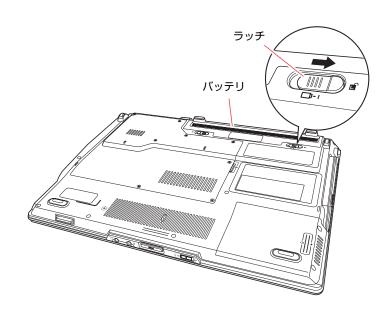
複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用のバッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
http://epsondirect.jp/

バッテリの交換

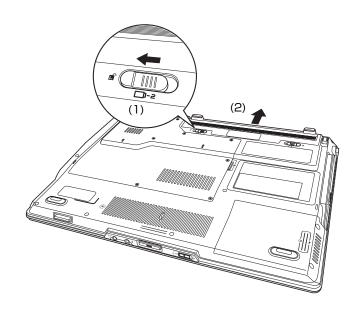
バッテリの交換は次の手順で行います。

1 本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。

2 本機の底面部を上にして置きます。

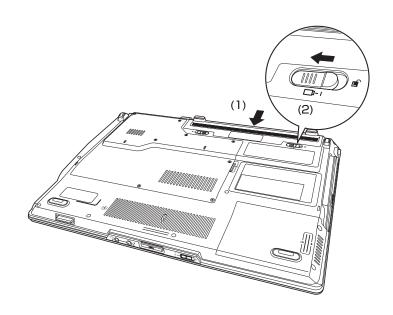
3 底面右側のラッチ（□-ı）をロック解除位置（🔓）までスライドさせます。

4 **バッテリを取り外します。**

(1) 底面左側のラッチ（□-2）をロック解除位置（🔓）までスライドさせ、指で押さえてロック解除位置（🔓）で固定します。

(2) バッテリを矢印の方向に押し出して取り外します。

5 **新しいバッテリを本機に取り付けます。**

(1) 下図のとおりバッテリを本機にあわせます。

(2) バッテリを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

(3) 底面右側のラッチ（□-1）をロック位置までスライドさせます。

バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。
なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、バッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけてください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。

コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

バッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

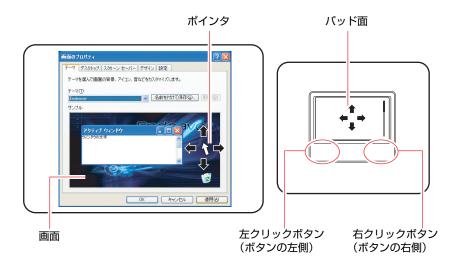
タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが装備されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

タッチパッドの操作

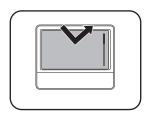
タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。

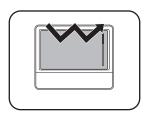
ポインタの移動

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。
- 電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおすことにより正常に動作することがあります。

パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、左クリックボタンの働きもします。ボタンを押す代わりに、パッド面を軽くたたくことにより、左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

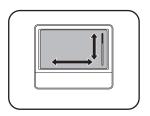
クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。
ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

スクロールバーのある画面を操作しているとき、パッド面で指を動かして画面をスクロールすることができます。
上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

▶タッチパッド機能を無効にする

キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的に無効にすると便利です。
タッチパッド機能の有効・無効の切り替えは、タッチパッドキー（□/×）で行います。

☞ p.79「インスタントキー」

▶タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティの各種設定は、次の場所から実行します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「マウス」

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして、［設定］ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

▶USBマウス（オプション）の接続

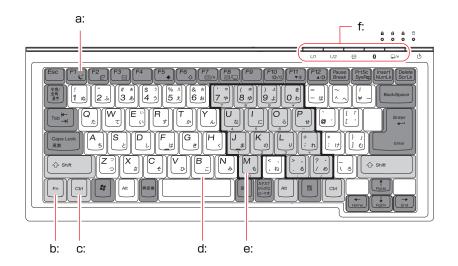
本機右側面または背面のUSBコネクタ（ 2.0）に、オプションのUSBマウスを接続して使うことができます。詳しくは、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機のキーボードは、日本語対応87キーボードです。また、5個のインスタントキーを搭載しています。

▶キーの種類と役割

入力キー

87個のキーと5個のインスタントキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

a: **機能キー**
文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: **Fnキー**
キートップに青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.77「Fnキーと組み合わせて使うキー」

c: **制御キー**
文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: **文字キー**
英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: **数値キー**
文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字、演算子などを入力します。Fn ＋ Num Lk キーを押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

f: **インスタントキー**

p.79「インスタントキー」

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

2

入力モードの切り替え

半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　MS-IMEの詳細な説明を見ることができます。

c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

［Fn］＋［Num Lk］を押すと、NumLock ランプ（🔒）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに［Shift］を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード

［Shift］を押したとき

アルファベット入力モード

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

［Shift］＋［Caps Lock］

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、［Shift］を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、［Shift］を押した状態でもう一度［Caps Lock］を押します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは、Fnキーと組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn + F1	省電力モードに移行します（購入時の設定ではスタンバイ）。 p.159「省電力機能を使う」
Fn + F2	Internet Explorerを起動します。
Fn + F3	Outlook Expressを起動します。
Fn + F5	LCD画面を暗くします。 p.111「LCDユニットの調整」
Fn + F6	LCD画面を明るくします。 p.111「LCDユニットの調整」
Fn + F7 LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.112「バックライトの消灯」
Fn + F8 LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、表示装置を切り替えます。 p.117「キーボードで操作する場合」
Fn + F10	スピーカからの音声のミュート（消音）を切り替えます。 p.124「音量の調節」
Fn + F11 ▼	スピーカの音量を小さくします。 p.124「音量の調節」
Fn + F12 ▲	スピーカの音量を大きくします。 p.124「音量の調節」
Fn + Num Lk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.76「数値キー入力モード」
Fn + Scr Lk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
Fn + End	行の最後に移動します。*
Fn + Home	行の最初に移動します。*
Fn + PgUp	前のページに移動します。*
Fn + PgDn	次のページに移動します。*

*ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

▶入力キーの機能の入れ替え

BIOSの設定を変更することで、次のキーの機能を入れ替えることができます。

(1)キーボード左下にある Fn キーとその隣の Ctrl キー

(2)キーボード右下にある Alt キーとその隣の [アプリケーションキー] キー(アプリケーションキー)

p.195 「Advanced メニュー画面」

▶Windowsキーとアプリケーションキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機　能
[Windowsキー] (Windowsキー)	画面左下の［スタート］をクリックするのと同じ働きをします。
[アプリケーションキー] (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

インスタントキー

本機には、5個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーを押すと、キーに割り当てられた機能を実行します。
各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機　能
U1キー	割り当てたアプリケーションを起動します。 p.79「U1、U2キーを割り当てる」
U2キー	
インフォメーションキー	インフォメーションメニューを起動します。 p.51「インフォメーションメニューを使う」
Bluetoothキー	Bluetooth機能のON/OFFを切り替えます。 p.103「Bluetooth機能を使う」
タッチパッドキー/×	タッチパッドの有効/無効を切り替えます。タッチパッドを使わないときは、タッチパッド機能を一時的に無効にしておくことができます。 p.72「タッチパッド機能を無効にする」

U1、U2キーを割り当てる

インスタントキーのU1、U2キーには、Hotkeyユーティリティを使ってお好きなアプリケーションを割り当てることができます。

Hotkeyユーティリティのインストール

購入時、Hotkeyユーティリティはインストールされていません。U1、U2キーを使用するには、Hotkeyユーティリティをインストールしてください。
p.214「Hotkeyユーティリティのインストール」

U1、U2キーの設定

- 割り当てたアプリケーションは、タスクトレイに「Hotkey」アイコンが表示されているときのみ起動します。タスクトレイから「Hotkey」アイコンが消えてしまった場合は、スタートメニューからユーティリティを再起動してください。
  [スタート]－「すべてのプログラム」－「スタートアップ」－「EPSON Hotkey」
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、割り当てたアプリケーションを使用できません。再起動してログオンしなおすか、ユーザー切り替え後に再度Hotkeyの設定を行ってください。

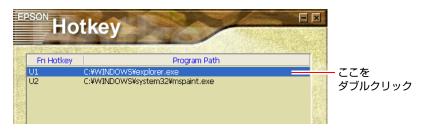
Hotkeyユーティリティのインストール直後は、次のアプリケーションが割り当てられます。

- U1キー：マイコンピュータ
- U2キー：ペイント

設定内容を変更したい場合は、以下の手順で割り当てを行います。ここでは、U1キーにアプリケーションを割り当てる方法を例にして説明します。

1 タスクトレイの「Hotkey」アイコンをダブルクリックします。

<Hotkeyアイコン>

2 表示された画面のU1をダブルクリックします。

3 「U1」画面が表示されたら、割り当てたいアプリケーションを選択します。

4 「U1」画面の［Apply］をクリックします。

5 画面右上の［－］をクリックして画面を閉じます。

［×］をクリックすると、タスクトレイから「Hotkey」アイコンが消え、割り当てたアプリケーションが変更されてしまうので、必ず［－］をクリックします。

これで割り当ては完了です。U1キーを押すと、割り当てたアプリケーションが起動します。
U2キーの場合も同様に割り当てます。

HDDを使う

本機にはHDD（ハードディスクドライブ）が内蔵されています。
HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動しないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、光ディスクなどのほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。
バックアップの方法は、当社のユーザーサポートページ（Web）で詳しく紹介しています。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ(Web)」－「よくある質問」－「操作・設定方法」

▶購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

＜通常＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約2GB*
Cドライブ	残り

＜HDD設定変更サービスを選択された場合＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約2GB*
Cドライブ	購入時に選択された容量
Dドライブ	残り

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。
*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータが登録されています。

この領域は「マイコンピュータ」では表示されませんが、Windowsのインストール時に表示されます。この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。

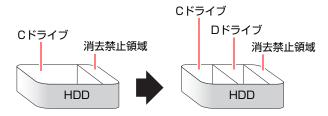
「消去禁止領域」のデータは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

p.254 「バックアップCDの作成」

▶HDDを分割して使用する

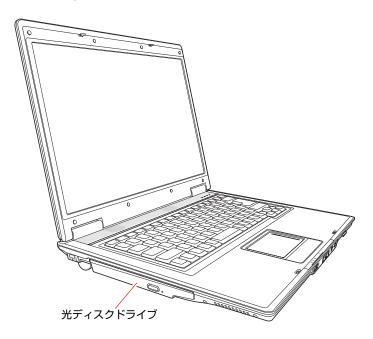
1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。

CドライブにはWindowsがインストールされているので、Cドライブを分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。

詳しくは、p.259 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスク(CD/DVD)ドライブを使う

光ディスクドライブは、光ディスクメディアを使用するための機器です。購入時に選択された光ディスクドライブにより、機能や使用できるメディアは異なります。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。
なお、購入時の選択によっては、光ディスクドライブが搭載されていない場合もあります。

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

本機では、CD(コンパクトディスク)の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクについては、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

購入時に選択された光ディスクドライブで使用できるメディアは、「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルでご確認ください。

p.51 「インフォメーションメニューを使う」

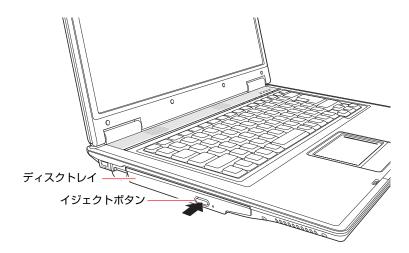
光ディスクメディアについての簡単な説明は、「インフォメーションメニュー」-「PCお役立ち情報」をご覧ください。

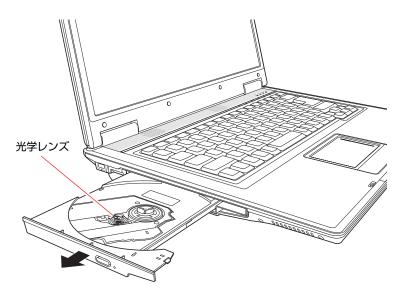
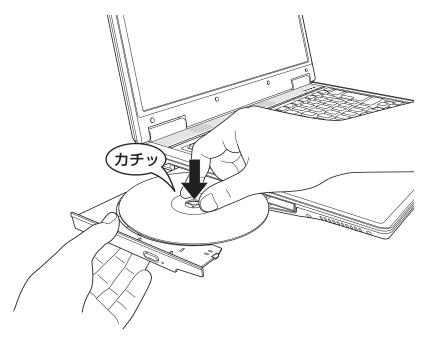
▶光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、再起動しないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。

セット方法

1 **イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。**

2　ディスクトレイを静かに引き出します。

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
メディアのデータが読めなくなります。

3　印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。

4　ディスクトレイを静かに閉じます。

取り出し方法

1. イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。そのままま っすぐ引き出します。
2. メディアをディスクトレイから取り出します。
3. ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合
ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

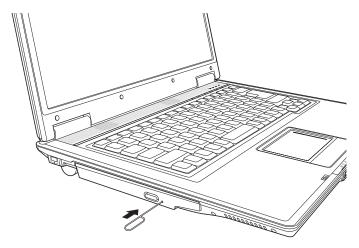
次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブが故障して、メディアが取り出せない場合
- メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

取り出し方法は次のとおりです。

1 **本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。**

p.55 「電源の切り方」

2 **イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたようなもの）を差し込みます。**

3 **ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。**

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

本機の光ディスクドライブでは、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

本機にはDVD VIDEO再生のためのソフトウェア「WinDVD」がインストールされています。WinDVDの詳しい使用方法は、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。
DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を下げてみてください。
p.114 「解像度や表示色の変更方法」

▶光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。
お使いの光ディスクドライブで書き込み可能なメディアについては、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている、光ディスクドライブのPDFマニュアルをご覧ください。

p.51 「インフォメーションメニューを使う」

作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

書き込み時の注意

● 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力モードに切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。
書き込みを始める前に、省電力機能を無効にしてください。

p.162 「時間経過で移行させない」

● 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのPDFマニュアルで確認できます。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。書き込み機能のある光ディスクドライブを選択された場合、本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

p.90 「Nero 7 Essentialsの使い方」

▶Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックします。**

2 **Nero 7 Essentials画面が表示されます。**

Nero 7 Essentialsの詳しい使い方については、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Nero ユーザーガイド』をご覧ください。

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
パケットライトでメディアに書き込むには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
「InCD」の詳しい使い方については、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『InCD ユーザーマニュアル』をご覧ください。

- 「InCD」で使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは「Nero 7 Essentials」で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップデートについて

本機にインストールされている「Nero 7 Essentials」は、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップの「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に2個、背面に2個、合計4個用意されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。接続する機器によっては、デバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続した状態で電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB 記憶装置を取り外した状態で行い、Windows 起動後に接続してください。

USB2.0の転送速度

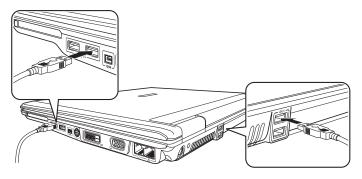
USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器は次のように接続します。

1 **USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（2.0）に接続します。**

2 **USB機器によっては、タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示されます。**

＜取り外しアイコン＞

取り外し

USB機器の取り外し方法には、次の2とおりの方法があります。

● タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示されていない場合、または本機の電源を切った後はそのままUSB機器を取り外す。

● タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示されている場合、Windows上でUSB機器の終了処理をした後に取り外す。

USB機器の終了処理は、次の手順で行います。

1　**タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリックします。**

＜取り外しアイコン＞

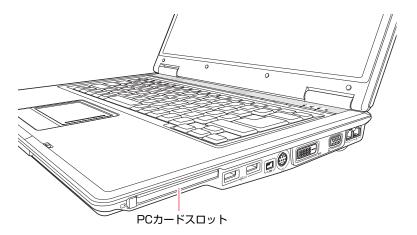
2　**表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器）ー・・・を安全に取り外します」を選択します。**

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します

3　**「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。**

PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIのPCカード（CardBus対応）を装着することができます。

- PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- PCカードによっては、初回挿入時に再起動を要求される場合があります。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- FAX モデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力モードを無効にしてください。
  p.162 「時間経過で移行させない」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。
- PCカードの形状によっては装着できないカードがあります。

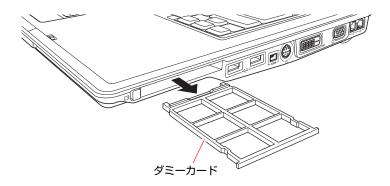
▶PCカードのセットと取り外し

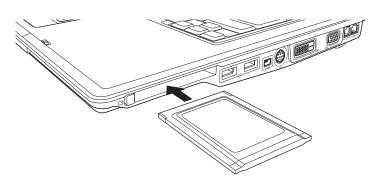
- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、電源を切らずに抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時はPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

PCカードのセット

PCカードは、次の手順でセットします。

1　PCカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、p.97「PCカードの取り外し」の手順2、3を参照してダミーカードを取り外します。

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2　PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

3　コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4　認識されるとPCカードが使用できます。

正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示されます。

＜取り外しアイコン＞

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。

PCカードの内容の確認

タスクトレイにある「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックすると、PCカードの内容を確認することができます。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。

本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1 **PCカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。**

PCカードの終了処理は、次の手順で行います。

(1) タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリックします。

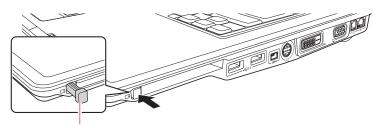
＜取り外しアイコン＞

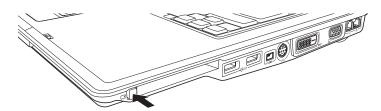
(2) 表示されたメニューから「(取り外したいPCカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。

PCMCIA IDE/ATAPI Controller - ドライブ (E:) を安全に取り外します

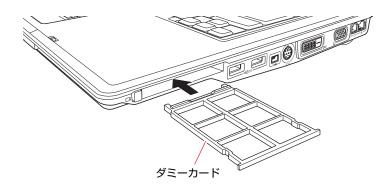
(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

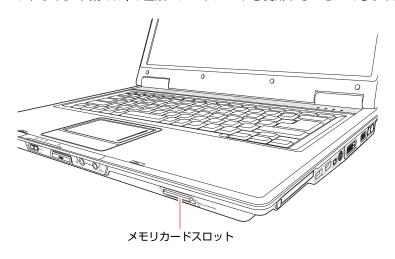
2 **PCカードイジェクトボタンを「カチッ」と音がするまで押すと、イジェクトボタンが出てきます。**

PCカードイジェクトボタン

3 **出てきた PC カードイジェクトボタンを再び押し込むと、PC カードが出ます。**

4 **出てきたPCカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

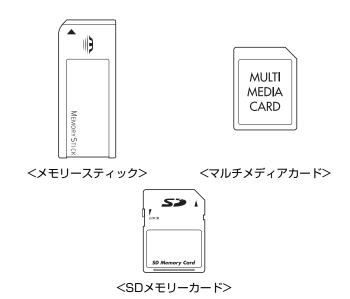
5 **ダミーカードをPCカードスロットにセットします。**

コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードをセットしておいてください。

メモリカードを使う

本機正面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードとは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。

▶本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカードの3種類です。下記のイラストは、各メモリカード表面のイラストです。

<メモリースティック>　<マルチメディアカード>

<SDメモリーカード>

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックおよびメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する前に、必ずお読みください。

- メモリカードにアクセス中は、メモリカードを抜かないでください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。

p.162 「時間経過で移行させない」

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのセットと取り出し

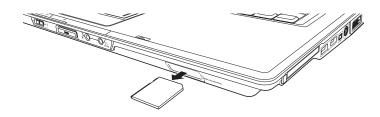
メモリカードを使用する前に、必ず「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

p.100 「メモリカード使用時の注意」

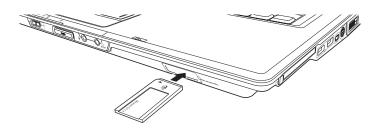
メモリカードのセット

メモリカードは、次の手順でセットします。

1 メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押し、少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜き、取り外します。

ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2　メモリカードをメモリカードスロットに挿入します。

メモリカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。
メモリカードの表面は、「本機で使用できるメモリカード」をご覧ください。

p.99 「本機で使用できるメモリカード」

3　認識されると、メモリカードが使用できます。

正しくセットされると、タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示されます。

＜取り外しアイコン＞

メモリカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。

メモリカードの取り出し

メモリカードは、次の手順で取り出します。

1　メモリカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。

メモリカードの終了処理は、次の手順で行います。

(1) タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリックします。

<取り外しアイコン>

(2) 表示されたメニューから、「(取り外したいメモリカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

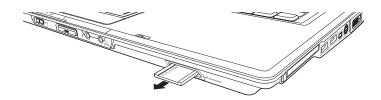
メニューに複数表示される場合は、別のデバイスを選択しないよう、注意してください。

Ricoh SD/MMC Disk Device - ドライブ (E:) を安全に取り外します

(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、メモリカードの終了処理は完了です。

2　メモリカードを「カチッ」と音がするまで押すと、メモリカードが少し出ます。

強く押すと、メモリカードが飛び出すことがあるので注意してください。

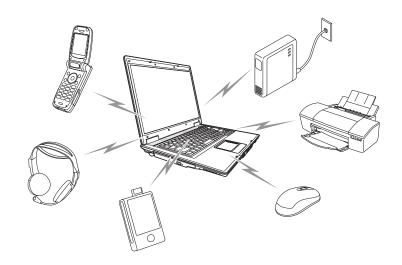
3　メモリカードをまっすぐに引き抜きます。

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

Bluetooth機能を使う

本機には、Bluetooth機能が搭載されています。
Bluetoothとは、無線の通信方式の1つです。ここでは、Bluetooth機能の使い方について説明します。

Bluetooth機能でできること

本機では、Bluetooth機能を使用して、次のようなことができます。

- **Bluetooth対応の周辺機器を使用できます。**
  マウス、プリンタ、カメラ、ステレオヘッドフォン、ヘッドセット、携帯電話、ワイヤレスモデムステーション、アクセスポイントなど
- **Bluetooth機能が搭載されているコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。**

仕様

本機に搭載されているBluetooth機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth標準規格 Ver 2.0 + EDR	2.4GHz

Bluetoothドライバのインストール

Bluetoothドライバをインストールします。購入時にはBluetoothドライバはインストールされていません。

p.209 「Bluetoothドライバのインストール」

Bluetooth機能の使い方

本書では、Bluetooth機能の基本的な使い方について簡単に説明しています。
Bluetooth機能の詳細な使い方は、次の場所に記載されています。本書と合わせてご覧ください。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「Bluetooth」－「ユーザーズガイド」

Bluetooth機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm 以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - ・手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自宅療養など、医療機関以外で植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。
- 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意事項

- 本機のBluetooth機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機のBluetooth機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

- 本機のBluetooth機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解/改造すると法律で罰せられることがあります。

- 2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機のBluetooth機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機のBluetooth機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合もありますが、故障ではありません。

通信可能な距離

Bluetoothで通信可能な距離は、10m以内です。Bluetooth通信を行うときは、本機と通信を行う機器とを10m以内に設置してください。
推奨される通信距離は3m以内です。

通信可能距離は 10m 以内ですが、通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

- 使用する機器がBluetoothに対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数のBluetooth機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。
- 大容量データを送受信する場合は、途中で通信が途切れることがあります。その場合は、再度送受信してください。

- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。
- 簡易ユーザー切り替えでユーザーを切り替えた場合は、Bluetooth 機能を使用できません。再起動してログオンしてください。

プロファイル

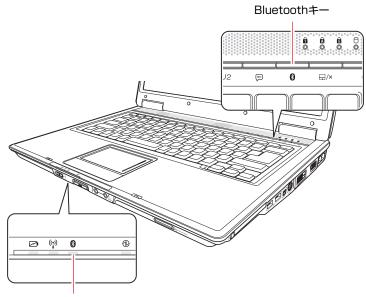
Bluetooth通信を行う場合は、本機と通信する周辺機器が共通のプロファイルに対応している必要があります。
プロファイルとは、機器によって提供される機能のことで、Bluetooth通信を行うための規格です。製品ごとの特長や使用目的に応じて複数のプロファイルが制定されています。
本機が対応しているプロファイルの種類は、次の場所で確認してください。

[スタート] －「すべてのプログラム」－「Bluetooth」－「ユーザーズガイド」－「はじめに」－「使用できるBluetooth™ワイヤレステクノロジー機器の種類」

▶Bluetooth機能のON/OFF切替

Bluetooth機能のON/OFFの切替方法について説明します。

Bluetooth機能をONにする

Bluetooth機能を使用する場合は、Bluetoothキー（ ）を押して、Bluetooth機能をON（有効）にします。

Bluetooth状態ランプ

BluetoothのON/OFFの状態は、Bluetooth状態ランプ（ ）で確認できます。

Bluetoothの状態	Bluetooth状態ランプ
ON	緑点灯
OFF	消灯

▶Bluetooth対応の周辺機器を使用する

Bluetooth対応のマウスやキーボードなどの周辺機器を使用する方法について説明します。

周辺機器の検出・登録

新規で周辺機器を使用する場合、周辺機器を検出して登録をする必要があります。登録の手順は次のとおりです。

周辺機器によっては、設定中に、Bluetoothパスキー（PINコード）の入力を促す画面が表示される場合があります。この場合は、周辺機器に添付の取扱説明書を参照の上、パスキーを入力して［OK］をクリックしてください。

1　本機と周辺機器を10m以内に設置します。

p.105 「通信可能な距離」

2　本機と周辺機器のBluetooth機能を「ON」にします。

p.107 「Bluetooth機能のON/OFF切替」

周辺機器のBluetooth機能をONにする方法については、周辺機器に添付の取扱説明書を参照してください。

3　周辺機器を検索します。

(1) タスクトレイのBluetoothアイコン（ ）を右クリックして、「Bluetooth設定」を選択します。

＜新規で周辺機器を検索する場合＞

「新しい接続の追加ウィザード」が表示されます。

＜すでに本機に登録された周辺機器がある場合＞

「Bluetooth設定」画面が表示されたら、［新しい接続］をクリックして、「新しい接続の追加ウィザード」を表示します。

(2)「新しい接続の追加ウィザード」画面で「エクスプレスモード」にチェックが付いていることを確認して、［次へ］をクリックします。

「カスタムモード」は、周辺機器が、複数の機能（サービス）をサポートしている場合に、使用したい機能を選択することができます。

以降は画面の指示に従って登録を行います。

周辺機器を使用する

登録が完了すると、「Bluetooth設定」の一覧に周辺機器のアイコンが表示され、周辺機器が使用できるようになります。
一度登録を行うと、次回以降は自動的に周辺機器を使用できます。

自動的に接続できない場合

「Bluetooth 設定」画面で接続したい周辺機器のアイコンを右クリックし、「接続」を選択して、接続します。

▶コンピュータ同士でBluetooth通信する

本機では、Bluetooth機能を搭載したコンピュータやPDAとデータの送受信ができます。

2

データの送信

ここでは、本機からBluetooth機能を搭載したコンピュータにデータを送信する方法について説明します。

1　本機と送信先のコンピュータを10m以内に設置します。

p.105 「通信可能な距離」

2　本機と送信先のコンピュータのBluetooth機能を「ON」にします。

p.107 「Bluetooth機能のON/OFF切替」

3　本機のタスクトレイのBluetoothアイコン（）を右クリックして、「ワイヤレスファイル送信」を選択します。

送信先のコンピュータが自動的に検出され、「ワイヤレスファイル送信」画面の「送信可能な機器」に名前が表示されます。

＜ワイヤレス送信画面＞

4　「送信可能な機器」から、送信先のコンピュータを選んで、チェックを付けます。

5　［追加］をクリックして、送信するファイルを指定します。

6 **［送信］をクリックします。**

送信先のコンピュータで、受信許可メッセージが表示されます。表示内容は、送信先のコンピュータのBluetoothユーティリティソフトウェアにより異なります。

7 **「ファイル転送が成功しました。」と表示されたら［OK］をクリックします。**

これでファイル転送は完了です。送信したファイルは、次の場所に保存されます。

［スタート］－「マイドキュメント」－「Bluetoothフォルダ」－「Image Inboxフォルダ」

データの受信

本機がBluetooth通信で受信したファイルは、次の場所に保存されます。

タスクトレイのBluetoothアイコン（ ）を右クリック－「Bluetooth情報交換」

▶セキュリティを設定する

本機では、セキュリティの確保のために、本機をほかのBluetooth機器から検出されないようにしたり、通信内容を暗号化したりする設定ができます。
セキュリティに関する各種設定は、次の画面で行います。

タスクトレイのBluetoothアイコン（ ）を右クリック－「オプション」－「セキュリティ」タブを選択

Bluetoothユーティリティのセキュリティについての詳細は、次の場所をご覧ください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Bluetooth」－「ユーザーズガイド」－「Bluetoothユーティリティを使ってみよう」－「より高度な使い方」－「他のユーザから機器を検出不能にする」/「通信内容を暗号化する」

画面表示をする

ここでは、本機のLCDユニットでの画面表示について説明します。
本機では、LCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。
p.115「外付けディスプレイに表示する」

▶LCDユニットの仕様

本機では次のいずれかのLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 15.4型　WSXGA+　　最大解像度　1680×1050
- 15.4型　WUXGA　　最大解像度　1920×1200

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるものでで故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、WSXGA+の場合で全ドットの0.00015%以下に、WUXGAの場合で全ドットの0.00012%以下に相当します。

*「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

本機の副画素数

WSXGA+の場合　5,292,000個
WUXGAの場合　6,912,000個

▶LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn + F5 ☀	暗くなります
Fn + F6 ☼	明るくなります

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は、次の方法で行います。

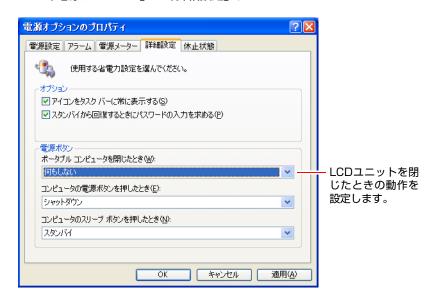
キー操作/ LCDユニットの操作	状態
Fn + F7　LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。
LCDユニットを閉じる	バックライトが消灯します。*

*本機では、LCDユニットを閉じたときの動作を変更できます。

p.112「LCDユニットを閉じたときの動作」

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときに、スタンバイモードや休止状態に移るなどの動作を設定できます。
初期値は「何もしない」（バックライトの消灯のみ）です。
設定は次のプロパティ画面から行います。

[スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「詳細設定」タブ

▶表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度と表示色は次のとおりです。

画像が正常に再生できない場合は

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

次の解像度の場合、表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

表示装置 解像度	15.4型WSXGA+	15.4型WUXGA
800×600	○	○
1024×768	○	○
1280×1024	○	○
1400×1050	○	○
1600×1200	－	○
1680×1050	○	－
1920×1200	－	○

解像度や表示色の変更方法

セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.244 「セーフモードでの起動」

1 [スタート] －「コントロールパネル」－「デスクトップの表示とテーマ」－「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 「画面の解像度」、「画面の色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3 項目を変更したら、[適用] をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

外付けディスプレイに表示する

本機には次の表示装置を接続して画面を表示することができます。

- 外付けディスプレイ（デジタルおよびアナログ）
- TV（S-ビデオで接続）

テレビへの表示については、p.123「テレビに表示する」をご覧ください。

▶ディスプレイの接続

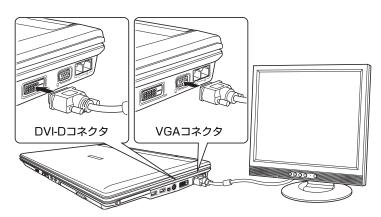
ディスプレイの接続

本機では、デジタル、およびアナログの外付けディスプレイを2台、同時に接続することができます。
ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1 **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**

2 **外付けディスプレイの接続ケーブルを本機右側面の次のコネクタに接続します。**

デジタルディスプレイの場合：DVI-D ケーブルを、本機の DVI-D コネクタ（DVI）に接続します。

アナログディスプレイの場合：VGAケーブルを、本機のVGAコネクタ（▭）に接続します。

3 **外付けディスプレイと本機の電源を入れます。**

［Fn］＋［F8］（LCD/▭）を押すと、表示装置の切り替えができます。

ビデオプロジェクタへの接続

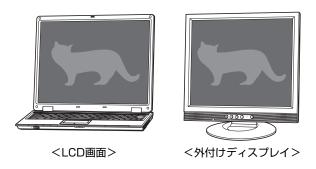
ビデオプロジェクタも外付けディスプレイと同様に、本機のVGAコネクタに接続して使用します。
プロジェクタ側の接続方法はプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

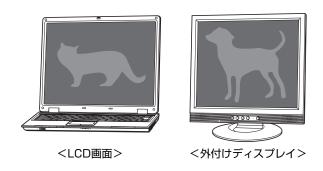
▶表示できるモードの種類

画面に表示できるモードは、次の4種類があります。

● 1つのディスプレイモード
1つのディスプレイ（LCDユニットのみまたは外付けディスプレイのみ）に表示します。外付けディスプレイが接続されていてもLCDのみで表示できます。

● クローンモード
2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

● 拡張デスクトップモード
それぞれのディスプレイに対して、個別に設定することができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

● 水平ストレッチモード
2つのディスプレイに1つの画面を分割して表示し、1つのディスプレイを使用しているかのように表示されます。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

▶モードを切り替えるには

画面のモードの切り替え方法は、次の2つの方法があります。

● キーボードで操作する。
キーボードで簡単に切り替えができます。
ただし、2画面表示はクローンモードのみ切り替え可能です。
● ユーティリティから操作する。
すべてのモードの切り替えが可能です。

本機に2台（デジタルとアナログ）の外付けディスプレイを接続している場合、表示装置は本機を含め3台になりますが、表示できるディスプレイは2台までです。

キーボードで操作する場合

[Fn]＋[F8]（LCD/□）を押して、表示装置を切り替えます。
本機で表示できる組み合わせは次のとおりです。接続している表示装置を自動的に認識して切り替えます。

● LCD Only （LCD画面のみに表示）
● CRT Only （アナログディスプレイのみに表示）
● LCD+CRT（LCD画面とアナログディスプレイに表示）
● DVI Only （デジタルディスプレイのみに表示）
● LCD+DVI （LCD画面とデジタルディスプレイに表示）
● CRT+DVI （アナログディスプレイとデジタルディスプレイに表示）

● 解像度の異なる２つの表示装置を選択した場合、低い方の解像度で表示されます。
● 「拡張デスクトップ モード」や「水平ストレッチ モード」で表示をしている場合、キーボードでの切り替えはできません。
動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。

ユーティリティから操作する場合

表示装置の切り替えや、表示モードなどを設定できます。
ここでは、2台のディスプレイに表示する方法を説明します。

1　本機に外付けディスプレイが接続されていることを確認し、デスクトップにある次のアイコンをダブルクリックします。

「ATI CATALYST Control Center」画面が表示された場合は、画面左下の［基本...］をクリックし、次の画面で［はい］をクリックします。

2　「ATI CATALYST Control Center へようこそ」と表示されたら、「基本の［簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、［次へ］をクリックします。

3　「実行する操作」と表示されたら、「ディスプレイ設定を設定します」が選択されているのを確認して、［移動する］をクリックします。

4　「利用可能なディスプレイ デバイス」と表示されたら、表示装置を２つ選択し、［次へ］をクリックします。

拡張デスクトップモードまたは水平ストレッチモードを選択する場合、「メインディスプレイ」に選択したディスプレイには、［スタート］メニュー（画面左側）が表示されます。

5 **「デスクトップモード選択」と表示されたら、モードを選択し、[次へ] をクリックします。**

6 **「ATI　ディスプレイマネージャー通知」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。**

表示されて15秒以内に［はい］をクリックしないと、設定は反映されませんので、ご注意ください。

7 **デスクトップの設定をします。**

<拡張デスクトップモードを選択した場合>

(1)「デスクトップ表示の単一ディスプレイ設定」と表示された画面で、解像度を変更する場合は変更し、[次へ] をクリックします。

(2)「拡張デスクトップ ディスプレイ構成」と表示された画面で、ディスプレイ上の配置を設定する場合は、画面メッセージに従い設定し、[終了] をクリックします。

<クローンモードまたは水平ストレッチモードを選択した場合>

「デスクトップ表示の単一ディスプレイ設定」と表示された画面で、解像度を変更する場合は変更し、［終了］をクリックします。

8 **「実行する操作」と表示された画面が表示されたら、［終了］をクリックします。**

これで、設定は終了です。

▶表示できる解像度と表示色

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。
実際に表示できる解像度は、表示モードや接続しているディスプレイによって異なります。

- **表示色**
  中（16ビット）/ 最高（32ビット）
- **解像度**　ピクセル（横×縦）
  800×600
  1024×768
  1280×1024
  1400×1050
  1600×1200

解像度の変更を行う場合は、ユーティリティの操作手順に従って変更してください。

p.118「ユーティリティから操作する場合」

参考

表示できる解像度
実際に表示できる最大解像度はコンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度の低い方になります。ディスプレイに添付のマニュアルで確認してください。

画面の縦横比を固定するには

購入時は、画面はLCD画面に合わせて全体表示されるように設定されています。選択した解像度によって画面が縦伸びまたは横伸びしたように見える場合には、縦横比を固定することができます。
縦横比を固定する手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップにある次のアイコンをダブルクリックします。**

「ATI CATALYST Control Center」画面が表示された場合は、画面左下の［基本...］をクリックし、次の画面で［はい］をクリックします。

2 **「ATI CATALYST Control Centerへようこそ」と表示された画面で、「基本の［簡単設定ウィザードとクイック設定］」を選択し、［次へ］をクリックします。**

3 **「実行する操作」と表示された画面で、「クイック設定」タブを選択し、「デスクトップのサイズを変更してディスプレイパネルに合わせます」が選択されている状態で、［移動する］をクリックします。**

4 **「ノートブックディスプレイに表示されるデスクトップイメージ」と表示された画面で、デスクトップ画面をどのように表示させるか選択し、［終了］をクリックします。**

選択するサイズの変更内容は、次の3つです。

- **サイズ変更なし**
  設定した解像度のまま表示します。
- **ディスプレイパネルにあうようにサイズを変更します**
  設定した解像度を、ディスプレイパネルに合わせて表示します。
- **サイズを変更しても、イメージのもとの大きさ［アスペクト比］は保ちます**
  解像度を変更した場合、もとの解像度のアスペクト比*を固定したまま変更します。
  ＊ アスペクト比
  画面や画像の縦横比のこと。通常のディスプレイはアスペクト比4:3です。

5 **「実行する操作」と表示された画面で、［終了］をクリックします。**

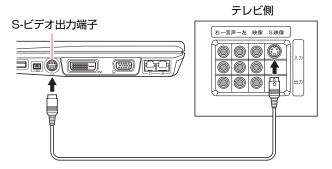
▶テレビに表示する

S端子ケーブルを使用して、本機とテレビを接続すると、本機の画像をテレビに表示できます。S端子ケーブルは市販のものをご利用ください。

S-ビデオ出力端子から出力される信号は、一般のテレビで表示可能に変換したNTSC 信号です。NTSC 信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログ RGB 信号ほどきめ細かい表示を行うことはできません。

接続

1 テレビと本機の電源を切ります。

2 市販のS端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ（S端子）と、本機右側面のS-ビデオ出力端子（）を接続します。

3 テレビと本機の電源を入れます。

表示の切り替え方法

Fn ＋ F8（LCD/）を押すたびに表示装置が切り替わります。表示装置の切り替えは、接続している表示装置を自動的に認識して行われます。
キーボードで切り替えできる表示の組み合わせは次のとおりです。

- TV Only（テレビ画面のみに表示）
- LCD+TV（LCD画面とテレビの両方に表示）
- LCD Only（LCD画面のみに表示）

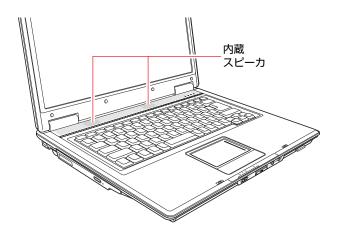
- テレビとの組み合わせで設定できる解像度は1024×768までです。LCD画面で1024×768より高い解像度を設定していた場合にテレビに切り替えると、1024×768の解像度で設定されます。
- テレビに表示を切り替えて解像度が変更された場合に、再びLCD画面に表示を戻しても、解像度は自動的に元に戻りません。

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵ステレオスピーカ

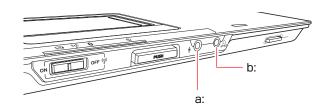
本機には、ステレオスピーカが内蔵されており、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

スピーカの音量は次のキーを押して調整します。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10 🔊/🔇	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11 ▼🔈	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12 ▲🔊	音量が大きくなります。

PC カードやアプリケーションによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、PC カードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

マイクなどの接続

本機前面には、カセットデッキなどのオーディオ機器やマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置や種類、使い方は次のとおりです。

a: **マイク入力コネクタ**
マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

b: **ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ** S/PDIF
ヘッドフォンやスピーカを接続した場合はヘッドフォンコネクタとして機能します。
MDデッキなどの光デジタルオーディオ機器と接続して設定を行うと、光デジタルオーディオ出力コネクタとして機能します。

ヘッドフォンやスピーカの接続
ヘッドフォンやスピーカを接続すると内蔵スピーカの機能は自動的に無効になります。

録音するには

Windows標準の「サウンドレコーダー」を使用します。
「サウンドレコーダー」は次の場所から起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「エンターテイメント」

「サウンドレコーダー」では、最長60秒間録音することができます。
長時間の録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。

マイク使用時の設定

本機にマイクを接続して使用する場合、音量の調節を行っても音が小さいときには、次の「録音コントロール」画面で設定を行ってください。

1 **次の場所から「サウンドとオーディオ　デバイスのプロパティ」画面を開きます。**

［スタート］－「コントロールパネル」－「サウンド、音声、およびオーディオ デバイス」－「サウンドとオーディオ デバイス」

2 **［オーディオ］タブ－「録音」項目の［音量］をクリックします。**

3 **「録音コントロール」画面で「マイクボリューム」項目の［選択］にチェックを付けます。**

4 **［オプション］メニュー－［トーン調整］をクリックします。**

5 **「マイクボリューム」項目－［トーン］をクリックし、「1_マイク ブースト」項目にチェックを付けます。**

これで設定は終了です。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果やS/P DIF出力などの設定ができます。
サウンドユーティリティを起動するには、タスクトレイの次のアイコンをダブルクリックします。

次の画面が表示されます。

設定項目を選択します。

Bluetoothヘッドフォンを使用する場合はサウンドユーティリティの音響効果が機能しない（有効にならない）場合があります。サウンド機能は通常通り使用できます。

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機右側面には、1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tに対応したLANコネクタが搭載されています。
本機のネットワーク機能（有線LAN）を使用してネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
  - ・再起動する。
  - ・省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。

おもな機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時やスタンバイ、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsをインストールすることができます。

無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）

無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。
本機には、IEEE802.11a/b/gの3つの規格に準拠した無線LAN機能が搭載されています。

対応規格

- IEEE802.11a（J52/W52/W53）
  5GHzの周波帯域で通信し、高速な転送速度を実現しています。家電製品と異なる周波帯域を使用するため、電波の干渉を避けることができます。
  ただし、電波法の規定により、屋内のみの使用に限られます。
- IEEE802.11b、IEEE802.11g
  IEEE802.11bは、従来より広く使用されている通信規格で、2.4GHzの周波帯域を使用します。IEEE802.11g は、同じく 2.4GHz の周波帯域を使用し、IEEE802.11bより高速な通信が可能です。

IEEE802.11aとIEEE802.11b/gでは互換性がありません。

▶無線LAN機能をお使いの前に

- 航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電子機器や医用電気機器に影響をおよぼす場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着されている場合は、装着部から本機を22cm以上離して使用してください。
  電波により植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関の屋内では次のことを守ってください。
  - ・手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まないでください。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
- 自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
- 自宅療養など、医療機関以外で植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を使用する場合には、電波の影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。

- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - 切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
  - 再起動する。
  - 省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。
- IEEE802.11aとb/gでは、使用する周波帯域が異なります。データ通信を行う場合は、同じ方式での通信が可能かどうか、事前に確認してください。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートに対応していません。

電波に関する注意事項

無線LANをお使いの前に、次の電波に関する注意事項をお読みください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- IEEE802.11aは、電波法の規定により屋外では使用できません。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機の裏面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

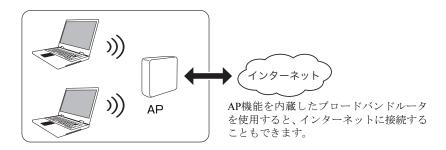
- IEEE802.11b/gを使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1 構内無線局（免許を要する無線局）
    2 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

● Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

▶無線LANによる通信の概要

無線LANでは、電波を送受信する無線LANアクセスポイント（以降、AP）を介して通信します。

▶無線LANのセキュリティの概要

無線LANは、電波を使用して通信するため、第三者に電波を傍受され、ネットワークに不正に侵入されたり通信データを盗み読みされたりする可能性があります。

p.11「無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）」

ここでは、無線LANで通信する際に必要なセキュリティの概要について説明します。

SSIDの設定

SSIDとは、無線LANで通信を行う特定のネットワークを識別するための名前です。まず、APに任意のSSIDを設定してから、接続するコンピュータにも同じSSIDを設定します。
ただし、第三者でも簡単にSSIDを読み取ることができるため、SSIDだけではセキュリティ対策は不十分です。APにSSIDの非通知機能が搭載されている場合は、非通知にすることをおすすめします。

情報の暗号化（WEPキー /WPA）

無線LAN通信をする場合、通信データを暗号化してデータが読み取られないようにします。まず、APで暗号化の設定を行い、コンピュータ側で同じ暗号化設定を行います。

暗号化には次のような方法があります。

- WEPキー

  WEPキーを設定すると、データが暗号化されるため情報が傍受されにくくなります。WEPキーは従来から使用されている暗号化の規格です。

- WPA

  WPAは、WEPキーの機能をさらに強化した方式です。WPAでは、暗号鍵を一定時間ごとに自動更新するため、より安全です。

本書では、暗号化方式の1つとしてWEPキーを使用した暗号化について説明しています。

MACアドレスフィルタリング

ネットワーク製品には、MACアドレスという固有の番号がそれぞれ割り当てられています。MACアドレスフィルタリングとは、AP側に無線LANのMACアドレスを登録することでそれ以外のMACアドレスからのアクセスをAP側が拒否する機能です。

無線LAN機器に関する用語一覧

無線LAN機器のマニュアルによって設定項目の呼び方が異なる場合があります。本書での記述と無線LAN機器のマニュアルが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント（AP）	ワイヤレスLANステーションアクセスポイント、親機、各社の製品名称
インフラストラクチャ通信	アクセスポイント通信、 アクセスポイント経由通信
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、 サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠ぺい、SSIDを見せない設定、 SSIDマスクビーコン、SSIDステルス
WEPキー	WEP暗号化キー、暗号化キー
PSK	事前共有キー
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限
キーインデックス	WEPキー番号、キー番号

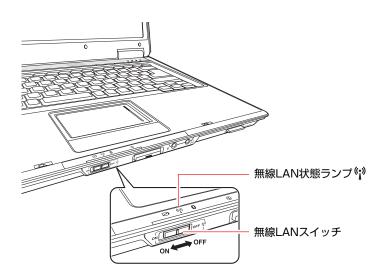
▶無線LANのON/OFF切替

無線LANのON/OFFの切替方法について説明します。

航空機や病院など、使用を禁止された区域では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電子機器や医療電気機器に影響をおよぼす場合があります。

次のような場合は、無線 LAN を OFF にしてください。
- 航空機や病院など、使用を禁止された区域に持ち込む場合
- ネットワーク（有線LAN）に戻して使用する場合

無線LANをONにする

無線LANを使用する場合は、無線LANスイッチをONにします。購入時には、無線LANはOFFになっています。

無線LAN状態ランプ

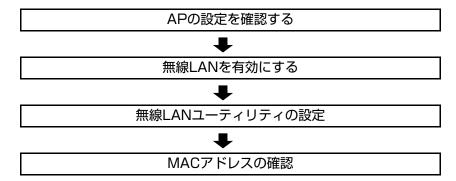
無線LANの通信状態は、無線LAN状態ランプ（ ）で確認できます。

無線LANの状態	無線LAN状態ランプ
ON	点　灯
OFF	消　灯

▶無線LANで接続する

ここでは、本機の無線LAN機能を使ってAPに接続するための方法について説明します。

無線LAN接続の作業の流れ

無線LANで接続するための作業の流れは次のとおりです。

APの設定を確認する

コンピュータ側で設定を行う際に、APに登録されている「SSID」と「暗号化」の設定内容を入力する必要があります。APに添付のマニュアルを参照して、「SSID」と「暗号化」の設定を確認しておいてください。

無線LANを有効にする

本機の無線LANがOFFになっている場合は、無線LANをONにしてください。

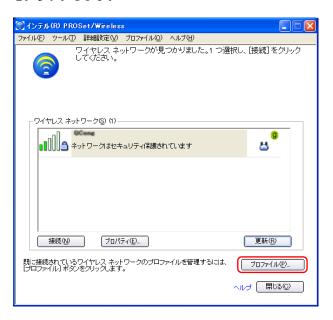
p.133 「無線LANのON/OFF切替」

無線LANユーティリティの設定

無線LANユーティリティ「インテルPROSet/Wireless」を使って、コンピュータをAPに接続するための設定について説明します。

会社のネットワークなど、ドメイン環境に接続する場合は、p.137 「ドメインに接続するための設定」を参照して設定を行ってください。

1 タスクトレイの次のアイコンをダブルクリックします。

2 「インテル（R）PROSet/Wireless」画面が表示されたら、［プロファイル］をクリックします。

3 「プロファイル」画面が表示されたら、［追加］をクリックします。

4 「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「一般設定」で、次の設定を行います。

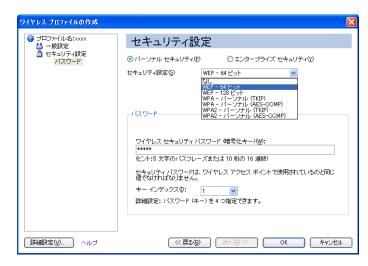
(1)「プロファイル名」に、任意の名前を入力します。

本ユーティリティでは、無線LANの接続設定を、プロファイルとして管理します。

(2)「ワイヤレス ネットワーク名（SSID）」に、接続するAPで設定されたSSID を入力します。

(3)「操作モード」で、「ネットワーク（インフラストラクチャ通信）…」を選択します。

(4)［次へ］をクリックします。

5 **「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「セキュリティ設定」で、接続するAPで設定された暗号化に関する設定などを行います。**

ここでは、APにWEPキーの64ビットが設定されている場合を説明します。AP にWEP キー以外の暗号化方式が設定されている場合は､お使いになるAPに添付のマニュアルなどをご覧になり、AP 接続に必要な項目の設定を行ってください。
「セキュリティ設定」画面の詳細は、画面左下のヘルプをご覧ください。

(1)「パーソナルセキュリティ」を選択します。
(2)「セキュリティ設定」で「WEP-64 ビット」を選択します。
AP のWEP キーの設定と同じ内容にします。
(3)「ワイヤレス セキュリティパスワード（暗号化キー）」に、APで設定されているパスワードを入力します。
(4)「キーインデックス」で1～4の中から1つを選択します。
APのキーインデックスと同じ設定にします。
(5)［OK］をクリックします。

6 **「インテル（R）PROSet/Wireless」画面で、作成したプロファイルを選択して、［接続］をクリックします。**

これでAPとの接続は終了です。

MAC アドレスの確認

本機の無線LANのMAC アドレスを、「インテルPROSet/Wireless」画面で確認します。使用するネットワーク環境のプロファイルを選び、「プロファイル」項目右上の［詳細］をクリックして確認します。確認したMACアドレスをAPに登録してください。登録方法については、お使いのAP に添付のマニュアルをご覧ください。

▶無線LANを使う

ネットワークへの接続

「インテルPROSet/Wireless」に登録した無線LANの接続設定は、プロファイルとして表示されます。無線LANで接続するには、「インテルPROSet/Wireless」画面で［接続］をクリックします。
複数の無線LAN接続設定をプロファイルとして登録している場合には、接続したいプロファイルを選択して［接続］をクリックすると、接続先を切り替えることができます。通常は自動的に前回接続したプロファイルに接続されます。

2

チャンネルの切り替え

本機から発信する電波がほかの無線LAN 環境と干渉してしまった場合は、AP側で使用チャンネルを変更してください。使用チャンネルの変更方法は、お使いになるAP により異なります。詳しくは、お使いのAP に添付のマニュアルをご覧ください。

▶ドメインに接続するための設定

企業などでドメイン環境に接続する場合は、Windowsログオン前にAPに接続する必要があります。そのためには、次の設定を行ってください。作業は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

- 機能の追加
- 管理ツールでの無線LAN接続設定
- Windowsでの設定

ここでは、機能の追加と管理ツールでの接続設定を説明します。

制限

設定は、「コンピュータの管理者（Administrator）」権限でログオンして行ってください。

ドメイン環境に接続しない場合は、これらの設定を行う必要はありません。

機能の追加

ドメインに接続する場合は、無線LANユーティリティにシングルサインオン機能と管理ツールをインストールする必要があります。インストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上に表示された「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリーツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。
手順4の画面が表示されるまでには、数分かかります。

4 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から「項目別インストール」を選択します。

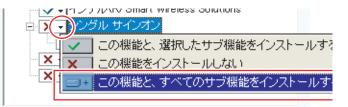
5 「ドライバ・ソフトウェアのインストールと削除」画面が表示されたら、一覧から「無線LANドライバ」を選択し、［インストール］をクリックします。

6 「無線 LAN ドライバ」と表示されたら、［インストール開始］をクリックします。

7 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、［OK］をクリックします。

8 「インテル（R）PROSet/Wireless　インストーラ」画面が表示されたら、［ソフトウェアのインストール］をクリックします。

9 表示された項目から「変更」を選択し、［次へ］をクリックします。

10 一覧が表示されたら、次の2つの項目で、それぞれ▼をクリックして、「この機能と、すべてのサブ機能をインストールする」を選択しクリックします。
- シングルサインオン
- 管理ツールキット

11 ［編集］をクリックします。

12 「コンポーネントの変更を完了しました」と表示されたら［OK］をクリックします。

表示される画面の指示に従いWindowsを再起動すると、インストールは完了です。

Windowsのログオン画面

この設定を行って機能を追加すると、Windowsのログオン画面の表示が変わります。

ログオン時は、ユーザー名とパスワードを入力して［OK］をクリックします。パスワードを設定していない場合は、パスワード欄は何も入力する必要はありません。

続いて、管理ツールで接続設定を行います。

管理ツールでの無線LAN接続設定

Windowsにログオンしたときに無線LANに接続できるように管理ツールで設定を行います。

手順は次のとおりです。

1 タスクトレイの次のアイコンをダブルクリックします。

2 「インテル（R）PROSet/Wireless」画面が表示されたら、「ツール」メニューの「管理ツール」をクリックします。

3 「パスワードの作成」画面が表示されたら、「パスワード」と「パスワードの確認」にパスワードを入力して［OK］をクリックします。

「管理ツール」を次に使用するときは、ここで設定したパスワードの入力が必要になります。

4 「管理者パッケージを開く」画面が表示されたら、「新しいパッケージを作成する」を選択して［OK］をクリックします。

5 「管理者ツールー新しいパッケージ」画面が表示されたら、「プロファイル」タブ内の「ログオン前／共通」タブをクリックします。

6 ［追加］をクリックします。

7 「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「一般設定」で、次の設定を行います。

(1)「プロファイル名」に、任意の名前を入力します。
本ユーティリティでは、無線LANの接続設定を、プロファイルとして管理します。

(2)「ワイヤレス　ネットワーク名（SSID）」に、接続するAPで設定されたSSIDを入力します。

(3)［次へ］をクリックします。

8 「ワイヤレスプロファイルの作成」画面の「セキュリティ設定」で、APの設定にあわせて暗号化に関する項目を設定します。

p.134「無線LANユーティリティの設定」手順5

9 「管理者ツール－新しいパッケージ」画面の「ファイル」メニューから、「パッケージを保存する」を選択してクリックします。

10 「名前をつけて保存」画面で、「保存する場所」を選択し、任意の「ファイル名」を入力して［保存］をクリックします。

11 「保存されているパッケージ」画面が表示されたら、［終了］をクリックします。

12 「パッケージが保存されました」画面が表示されたら、「このパッケージをコンピュータに適用する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。
これで、管理ツールの設定は終了です。

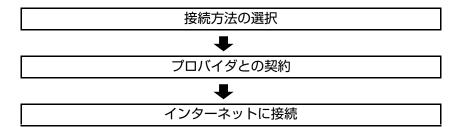
Windowsでの設定

ドメインに接続するには、続けてWindowsの設定が必要です。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続方法やインターネットを利用する上での注意事項について説明します。

▶接続するまでの流れ

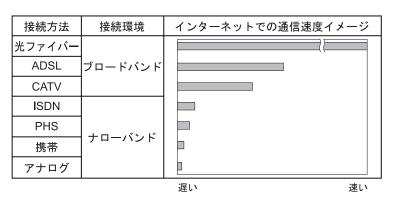
インターネット接続までの流れは次のとおりです。

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダに確認してください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと呼び、光ファイバー、ADSL、CATVなどでの接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと呼びます。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

● 光ファイバー（FTTH）

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

● ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。

● CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

● そのほかの接続方法（ナローバンド）

ほかにもアナログ電話回線やISDN回線を使った低速な接続方法があります。

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と呼びます。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順を記載した説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書は失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータが障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、コンピュータが障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法については、p.144 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際のコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。
ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、更新が必要な内容があった場合、インターネット上から更新内容をインストールし、本機を最新の状態にする機能です。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続した場合や、Windowsの再インストールをした場合は、まず、次の場所から手動で「Windows Update」を実行してください。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windows Update」

その後は定期的に自動でWindows Updateを実行してください。

定期的に自動でWindows Updateを実行する

本機の状態を最新に保ち、安全に使用するため、「Windows Update」は必ず定期的に実行してください。
定期的に自動でWindows Updateを実行する方法は、次のとおりです。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「自動更新」－「自動（推奨）」にチェック

購入時、「自動更新」は「有効」に設定されています。本機のセキュリティを最新に保つため、「有効」のままお使いください。

▶ウイルス対策ソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton AntiVirusを使う

本機には、ウイルス対策ソフトウェアとして、「Norton AntiVirus」が添付されています。購入時、本機に「Norton AntiVirus」はインストールされていません。インストールしてお使いください。「Norton AntiVirus」のインストール方法や使い方は、本機に添付の『ウイルス対策ソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付の「Norton AntiVirus」は、製品版ではありません。ウイルス定義ファイルの更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスについての詳細は、『ウイルス対策ソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざん、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。
不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton AntiVirusのファイアウォール機能

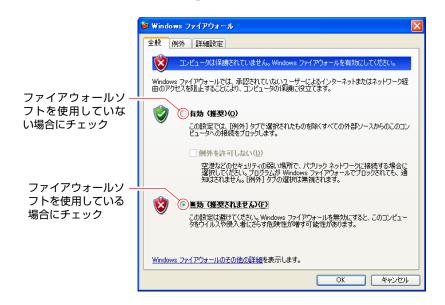
本機に添付の「Norton AntiVirus」には、ファイアウォールと同等の機能「Norton Internet Worm Protection」が備えられています。「Norton AntiVirus」のセットアップを行うと、自動的に「Norton Internet Worm Protection」が有効になります。そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。

「Norton AntiVirus」を使用している場合
「Norton AntiVirus」を使用している場合は、ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールは自動で「無効」に設定されています。

ファイアウォール機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。
Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－「Windowsファイアウォール」

FAXモデムを使う

本機には56Kbps（V.92/K56flex対応）の通信速度に対応したFAXモデムが搭載されており、ナローバンドでの通信が可能です。本章では、FAXモデムを使用し、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続するための設定について説明します。

FAX モデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。
- 構内交換機（PBX）
- 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
- ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

2

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でも、プッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。ダイヤル回線、プッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトや、Windows上で設定することができます。

- ダイヤル回線（パルス）
  回転式ダイヤル電話のように、ダイヤルの戻る時間によりダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。
- プッシュ回線（トーン）
  押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ・・」とトーンによる信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・回線での使用

- PBXやホームテレホン回線への接続
  本機のFAXモデムは、構内交換機（PBX）やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線およびISDN対応公衆電話のデジタル側ジャックに接続して使用できません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因になります。これらの回線には接続しないでください。
- キャッチホンサービスについて
  NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用は避けてください。なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.92＊1およびK56flex＊2通信方式により、最大受信速度（プロバイダなどの相手側から本機側への方向）は、56000bps、最大送信速度（本機からプロバイダなどの相手側への方向）は、48000bpsになります。
ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。
＊1V.92：ITU-T 国際電気通信連合が制定した通信規格
＊2K56flex：Lucent Technologies社とRockwell International社が提唱する通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やFAX機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
また、Windowsの通信機能を使用する場合は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

ATコマンドについて

本機のモデム機能では、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドについては、p.268「ATコマンドの使用」をご覧ください。

▶ダイヤル情報の設定

モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

1 ダイヤル情報の設定画面を表示します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」

2 「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

▶手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います（ダイヤルアップ接続の設定）。次の手順は設定方法の一例です。プロバイダから設定方法資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。

接続に関する用語一覧
プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
接続ユーザー名	ユーザ名、コネクションID 、PPPログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID 、ID番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
接続パスワード	パスワード、PPPパスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mailアカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mailアカウント、アカウント名
メールパスワード	Mailパスワード、パスワード、初期パスワード
受信メールサーバ	メールサーバ、受信メールサーバ（POP3）
送信メールサーバ	メールサーバ、送信メールサーバ（SMTP）

手動でダイヤルアップ接続の設定を行う手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「通信」－「新しい接続ウィザード」をクリックします。

2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で［次へ］をクリックします。

4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」にチェックを付けて［次へ］をクリックします。

6 「接続名」と表示されたら、アクセスポイントの名前を入力して［次へ］をクリックします。

7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、アクセスポイントの電話番号を入力して［次へ］をクリックします。

8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して［次へ］をクリックします。

9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

10 ［スタート］－「接続」－「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）」をクリックします。

11 ［プロパティ］をクリックします。

12 プロバイダから DNS（ネーム）サーバのアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。

(1) 「ネットワーク」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」の［プロパティ］をクリックします。

(2) 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。

(3) 「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS（ネーム）サーバのアドレスを入力し、［OK］をクリックします。

13 「全般」タブー「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて［OK］をクリックします。

14 「（手順6で設定したアクセスポイントの名前）へ接続」の画面で［キャンセル］をクリックします。

p.151 「回線接続前の設定」に進みます。

▶回線接続前の設定

回線に接続する前に、次の接続に関する設定を行います。

- 接続方法の設定
  電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定をします。
- 切断画面の設定
  Internet Explorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。

接続に関する設定は、次の手順で行います。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット接続」－「インターネットオプション」－「接続」タブをクリックします。

2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
（接続方法の設定）

3 ［設定］－［詳細設定］をクリックします。

4 「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて［OK］をクリックします。（切断画面の設定）

5 「（接続先の名前）の設定」画面で［OK］をクリックします。

6 「インターネットのプロパティ」画面で［OK］をクリックします。これで接続に関する設定は終了です。

インターネットや電子メールを利用する

ここでは、インターネットを利用するための、次のソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

● Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

● Outlook Express（アウトルックエクスプレス）
電子メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

Internet Explorer、Outlook Expressを使用するには、インターネットへの接続が必要です。インターネットに接続するには、プロバイダと契約し、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行う必要があります。ご使用の前に、各種設定を行ってください。
p.141「インターネットに接続するには」

Internet Explorerの使い方

起動と終了

終了方法は次のとおりです。
ダイアルアップ接続の場合は、接続/切断の確認画面が表示されます。

起動

次のいずれかの方法でInternet Explorerを起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Internet Explorer」
- Fn + F2 （e）を押します。

終了

画面右上の ✕ をクリックします。
Internet Explorerが終了します。

画面の説明

※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

● 見たいホームページを開くには

- アドレスバーにアドレス（URL）を入力して［↵］を押します。
- キーワードを使って検索します。［検索］をクリックして、検索画面でキーワードを入力します。

●「お気に入り」にページを登録する

よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。「お気に入り」－「お気に入りに追加」をクリックして登録します。

● リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが ☝ から ☝ に変わる場所があります。☝ に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ（ステータスバーに表示されているアドレス）にアクセスできます。

● 以前に見たページを開く

［履歴］をクリックすると、以前に見たページの一覧が表示されます。

● 起動時に表示されるページを設定する

Internet Explorerを起動した際に表示されるページ（ホームページ）を設定するには、「ツール」－「インターネットオプション」－「全般」タブ－「ホームページ」で、表示したいページのアドレスを入力し、設定します。

● 文字のサイズを変更する

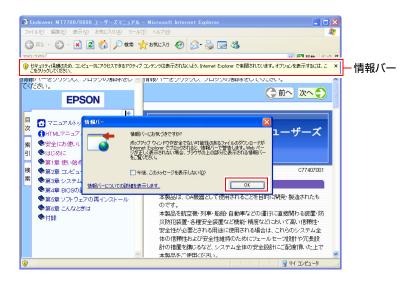
表示される文字のサイズを変更する場合は、「表示」－「文字のサイズ」から変更します。初期設定は「中」になっています。

「お気に入り」のバックアップ

Windowsを再インストールする場合は、必要に応じて「お気に入り」のバックアップを行ってください。

p.249 「データのバックアップ方法」

情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）が表示されたら、［OK］をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。

便利な追加機能について

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方については、デスクトップ上にあるアイコンをダブルクリックしてください。

● Liquid Surf（リキッド サーフ）

Liquid Surfは、Webページをより見やすくし、Webページのリンクを効率よくたどるためのものです。

Liquid Surfのアイコンは、画面上部に表示されます。これらのアイコンから、Liquid Surfの各機能を利用できます。

● gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

2

Outlook Expressの使い方

起動と終了

起動、終了方法は次のとおりです。

ダイアルアップ接続の場合は、接続/切断の確認画面が表示されます。

起動

次のいずれかの方法でOutlook Expressを起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」
- Fn + F3 （✉）を押します。

終了

画面右上の ✕ をクリックします。

Outlook Expressが終了します。

参考

ダイアルアップ接続時の電子メールの送受信

電子メールの送受信には、インターネット接続が必要ですが、電子メール作成時や、受信した電子メールを読むときは、インターネット接続の必要はありません。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定が必要です。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定は、次の手順で行います。

1 次のいずれかの方法でOutlook Expressを起動します。

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」
- Fn + F3（✉）を押します。

2 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。

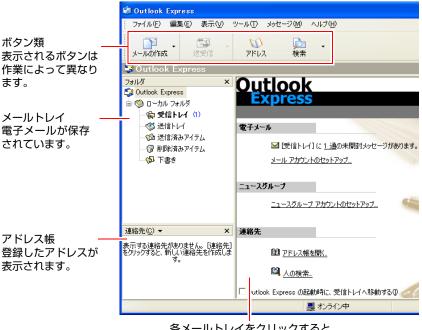
3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。

4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。

5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して［次へ］をクリックします。

6 「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

初期設定をあとから行う
「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。
「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「メール」

画面の説明

プレビュー表示

電子メールの一覧を表示すると、画面の下部に電子メールの内容が表示（プレビュー表示）されますが、受信トレイをプレビュー表示で使用するとウイルスに感染する危険があるので、無効にすることをおすすめします。
設定変更は「表示」－「レイアウト」で行います。

●電子メールを受信する

Outlook Expressを起動時にインターネットに接続すると、自動的に電子メールを受信します。
受信していない場合や、再度受信したい場合は、［送受信］を押します。

●受信した電子メールを見る

受信トレイをクリックして電子メールの一覧を表示し、見たい電子メールを開きます。

●電子メールを作成する

［メールの作成］を押すと、メッセージ作成画面が表示されます。

● 電子メールを送信する

メッセージ作成画面の［送信］を押すと指定した「宛先」に電子メールが送信されます。
送信されずに、「送信トレイ」に一時保存される場合は、［送受信］を押します。

● メールアドレスを登録する

［アドレス］を押して［新規作成］で登録します。

参考

「アドレス帳」「メールデータ」のバックアップ

Windowsを再インストールする場合は、必要に応じて「アドレス帳」や「メールデータ」のバックアップを行ってください。

p.249 「データのバックアップ方法」

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、コンピュータを使用していない間、コンピュータが省電力モードに移行して消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけで使用する場合は、省電力機能を使うことで本機の使用可能時間を延ばすことができます。

省電力モード使用時の制限

省電力モードを使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に、必ず確認してください。

- 周辺機器を接続している場合やアプリケーションを起動している場合などに、省電力モードに移行しないことがあります。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
  - 再起動する。
  - 省電力モードを無効にする。
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- FAXモデムやネットワーク機能などを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- ネットワーク機能などを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。
- サウンド機能を使って録音・再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 省電力モード時にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。
- 光ディスクメディアへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。
  p.162 「時間経過で移行させない」

2

- メモリカードを使用している場合は、データの書き込み途中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を使用しないでください。
  p.162 「時間経過で移行させない」
- バッテリのみで使用している場合、動画再生時にコマ落ちしたりアプリケーションの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性があります。このような場合には、省電力機能を無効に設定してください。
  p.162 「時間経過で移行させない」

省電力モードの種類

省電力機能には、次の省電力モードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- **HDD/ディスプレイの電源を切る**
  HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。
- **スタンバイ**
  作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプおよび電源スイッチが点滅します。通常モードへは、十数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。
- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。
  p.161 「休止状態を有効にする」

ローバッテリ省電力モード

本機は、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。
バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定を変更することができます。

p.65 「バッテリアラームの設定」

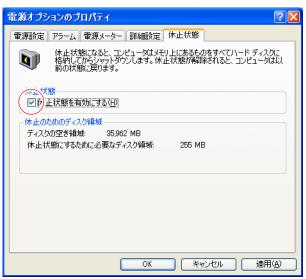
電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプ（⏻）の点灯、点滅により確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	点　灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	点　灯
スタンバイ	点　滅
休止状態	消　灯
電源切断時	消　灯

休止状態を有効にする

省電力モードの「休止状態」を有効にすると、電源スイッチを切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。「休止状態」を有効にする手順は次のとおりです。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」－「休止状態」タブ－「休止状態を有効にする」にチェック

<イメージ>

▶省電力モードに移行する

省電力モードに移行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書など）を保存しておくことをおすすめします。

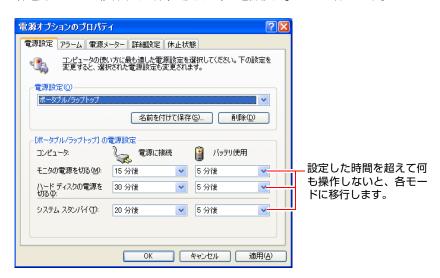
● 時間経過で移行
設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

● 直ちに移行
席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

時間経過で移行させない

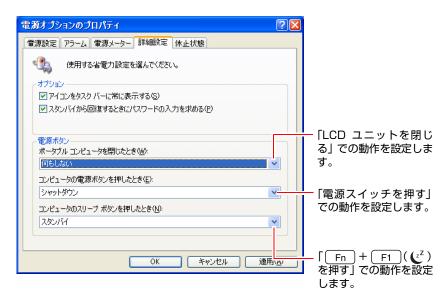
光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力モードへの移行を無効に設定します。

時間経過による省電力モードへの移行を無効にするには、「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

- ［スタート］－「終了オプション」から選択、実行する。
- LCDユニットを閉じる。
- 電源スイッチを押す。
- Fn ＋ F1 （ ）を押す。

「LCDユニットを閉じる」、「電源スイッチを押す」、「Fn＋F1（ ）を押す」方法で、どのモードに移行するかの設定は、「詳細設定」タブで行います。

購入時の設定は、次のとおりです。

実行方法	設　定
LCDユニットを閉じる	「何もしない」（バックライトの消灯のみ）
電源スイッチを押す	「シャットダウン」
Fn ＋ F1（ ）を押す	「スタンバイ」

▶省電力モードから復帰する

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	ランプ表示	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点　灯	● タッチパッド、キーボードを操作する（誤って電源スイッチを押さないでください）。
スタンバイ	点　滅	● 電源スイッチを押す。 ● キーボードを操作する。
休止状態	消　灯	● 電源スイッチを押す。

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

IEEE1394コネクタ

本機右側面にはIEEE1394コネクタ（4ピン）が1個用意されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、タスクトレイにアイコン（「取り外し」アイコンなど）が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

<取り外しアイコン>

文字やアイコンの大きさを変更する

本機には、デスクトップやInternet Explorerの表示をより見やすくするためのソフトウェア「Liquid View」がインストールされています。

Liquid View（リキッド ビュー）

Liquid Viewは画面に表示される文字が小さくて読みにくい場合などに使用すると便利です。

Liquid Viewでは、次のような操作を行うことができます。

- デスクトップ上のアイコンの大きさを変更する。
- ダイアログボックスやプルダウンメニューに表示される文字の大きさを変更する。

Liquid Viewは、次の方法で起動します。

［スタート］－「すべてのプログラム」－「Liquid View（R）Software」をクリック

起動すると次の画面が表示されます。
使用方法についての詳細は、ヘルプをご覧ください。

クリックすると、ヘルプが表示されます。

- Liquid Viewを使用してデスクトップ上のアイコンの大きさを変更したあと、タスクバーのアイコンの表示が乱れてしまった場合には、本機を再起動してください。
- Liquid Viewを使用してデスクトップ上のアイコンの大きさを変更したあと、タスクバーの大きさが元に戻らない場合には、タスクバーの上端をドラッグして、大きさを元に戻してください。

▶スピードステップ機能

本機では、スピードステップ機能が自動的に機能します。スピードステップ機能は、使用時のCPUの使用率にあわせて、CPUの処理速度を自動で調整します。CPUの使用率が少ないときは、CPUの処理速度を抑えて、消費電力を少なくします。また、CPUの使用率が高いときは、CPU処理を最速で動作します。
ただし、「電源オプション」の「電源設定」で「常にオン」を選択している場合は、CPU処理が常に最速になります。

現在のCPUの処理速度を次の画面で確認できます。

[スタート] －「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」－「システムのプロパティ」画面

▶データ実行防止機能（DEP機能）

本機は、データ実行防止機能（以降、DEP機能）に対応しています。DEP機能とは、メモリを利用して拡大する種類のコンピュータウイルスに感染してしまったアプリケーションやプログラムを停止する機能です。
DEP機能は、ウイルスの活動を阻止するもので、検索・駆除を行うものではありません。ウイルスの検索・駆除はウイルス対策ソフトウェアで行ってください。

DEP機能がウイルスを検出した場合、感染してしまったアプリケーションやプログラムの実行を停止し、次の画面を表示します。

2

上の画面が表示された場合は、ウイルス対策ソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

安全なアプリケーションでエラーが表示された場合

DEP機能では、安全なアプリケーションを実行した場合でも、メモリの状態によっては、アプリケーションを停止してしまう場合があります。このような場合は、アプリケーションの製造元へお問い合わせください。

さらにセキュリティを強化する

DEP機能を次のように設定すると、セキュリティがさらに強化されます。
Windowsを再インストールした場合も、再度設定が必要です。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。

2 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」欄にある［設定］をクリックします。

3 **「データ実行防止」タブをクリックし、「次に選択するものを除く・・・」にチェックを付けて［OK］をクリックします。**

4 **「コントロールパネルの［システム］」画面が表示されたら、［OK］をクリックします。**

5 **「システムのプロパティ」画面で、［OK］をクリックし、画面を閉じます。**

6 **［スタート］－「終了オプション」－［再起動］をクリックし、コンピュータを再起動します。**

コンピュータが再起動したら、設定は終了です。

セキュリティロックスロット

本機左側面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。
専用の盗難抑止ワイヤーは、当社ホームページで購入することができます。

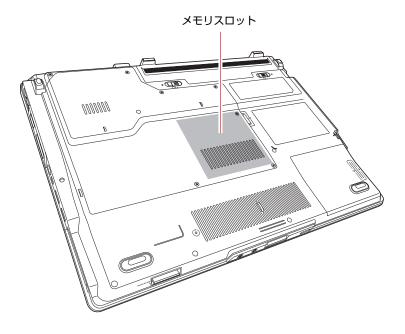
http://epsondirect.jp

セキュリティロックスロット

第3章
システムの拡張

アップグレードサービスや本機に接続できる装置について説明します。

拡張できる装置

本機では、メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）を交換して、機能を拡張することができます。

メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に2本用意されています。合計で最大2GBのメモリを搭載できます。

p.173 「メモリの装着」

本機は、メモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービスについて

当社ではコンピュータ本体をお預かりして装置の交換を行う、アップグレードサービスを有償で行っています。
本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ　：　交換
- 内蔵HDD　：　交換
- 光ディスクドライブ　：　交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、取り付け・取り外し方法について説明します。

メモリの仕様

本機底面には、メモリスロットが2本用意されています。メモリは交換することにより、最大2GBまで拡張することができます。
本機は、同一容量のメモリを2枚1組で使用することにより、高速なメモリ転送速度を実現しています。

本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-5300 SODIMM（DDR2-667 SDRAM使用）
- メモリ容量　256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- 200ピン
- CL=4

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。
http://epsondirect.jp

作業時の注意

メモリの交換をする場合は、次の点に注意してください。

- メモリの交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造やマニュアルで指示されている以外の交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。

- メモリの交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの交換

メモリの交換は、次の手順で行います。
メモリスロットには、同一容量のメモリを2枚1組で装着してください。

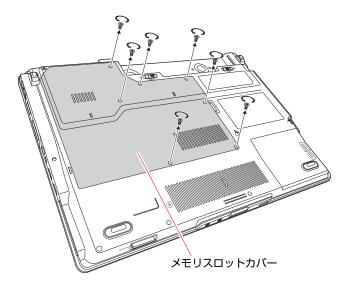
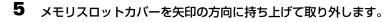
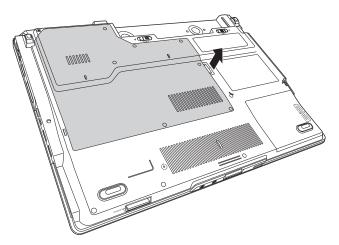
1 **本機の電源を切ります。**

2 **接続しているすべてのケーブルを外します。**

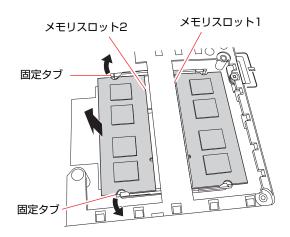
3 **本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

p.67 「バッテリの交換」

4 **メモリスロットカバーのネジ（7本）を外します。**

5　**メモリスロットカバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。**

6　**メモリスロットに装着されているメモリを、取り外します。**

メモリスロット1とメモリスロット2の手順は同じです。

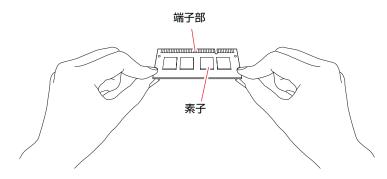
(1) メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリが起き上がります。

(2) 起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。

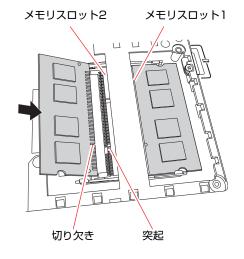
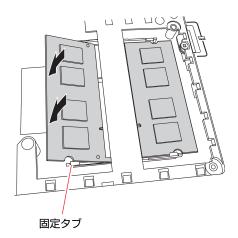
取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

7 メモリを取り付けます。

メモリスロット1とメモリスロット2の手順は同じです。

(1) メモリを静電防止袋から取り出します。

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

(2) メモリを、メモリスロットに差し込みます。

切り欠きを突起にあわせ、メモリを約15度の角度でメモリスロットに差し込みます。

(3) メモリを静かに倒します。
正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。

8 **メモリスロットカバーを取り付け、ネジ（7本）で固定します。**

9 **取り外したバッテリと、ケーブル類を元に戻します。**

p.67 「バッテリの交換」

10 **「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。**

p.177 「メモリ交換後の作業」

メモリ交換後の作業

メモリの交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

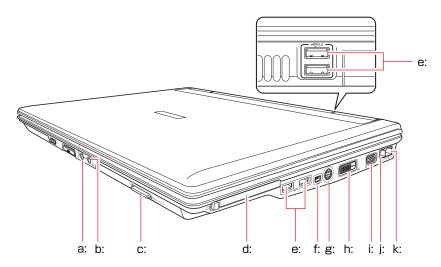
1 **コンピュータの電源を入れたら、F2 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**

p.181 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2 **「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。**

総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付けなおしてください。

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。

a: マイク入力コネクタ
- マイク

b: ヘッドフォン出力 / 光デジタルオーディオ出力（S/P DIF）コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン
- MDデッキ
- 5.1チャンネルサラウンドスピーカシステム

c: メモリカードスロット
- メモリースティック（Pro対応）
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

d: PCカードスロット
- PCカード
（PCMCIA規格準拠、Type II）

e: USBコネクタ
- プリンタ
- スキャナ
- デジタルカメラ
- USB FDD（オプション）
- USBマウス（オプション）
- USB対応機器

f: IEEE1394コネクタ
- DV機器
- IEEE1394対応機器

g: S-ビデオ出力端子
- テレビ

h: DVI-Dコネクタ
- 外付けディスプレイ（デジタル接続）

i: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ（アナログ接続）
- ビデオプロジェクタ

j: モデムコネクタ
- 電話回線

k: LANコネクタ
- ネットワーク

そのほかの接続可能な周辺機器

本機には以下の機器が接続できます。
- 無線LAN対応機器（無線LAN搭載時のみ）
- Bluetooth対応機器

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能を有効/無効にした場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。
設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。
  p.195「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Optimal Defaults」（初期値に戻す）または「Discard Changes」（前回保存した設定値に戻す）を実行することで、もとの値に戻すことができます。
  p.185「設定値をもとに戻すには」
- 当社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外のBIOSへのアップグレードは絶対に行わないでください。

BIOS Setupユーティリティの操作

▶BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。手順2では、すばやく F2 を押す必要があります。

1 **本機の電源を入れます。**

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2 **本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**

BIOS Setupユーティリティ（イメージ）

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、起動時に次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行して終了します。

p.188 「BIOS Setupユーティリティの終了」

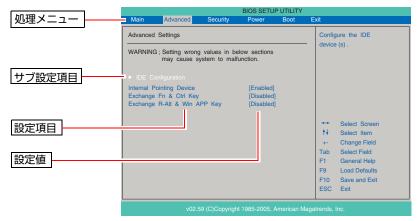
F1 を押すとWindowsが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

4

▶BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

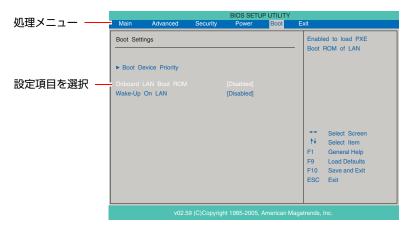
BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。

＜メニュー画面＞

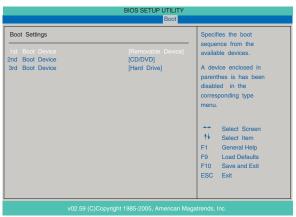
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は、p.189「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の操作方法

「BIOS Setupユーティリティ」の操作方法は、次のとおりです。

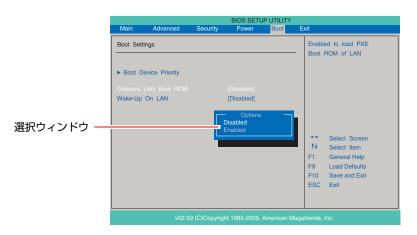
1　処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

【→】【←】でメニュー間を移動します。
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜▶のある項目の場合＞

▶のある項目の場合、【↵】を押すとサブメニュー画面が表示されます。
【↑】【↓】で設定値を変更したい項目まで移動します。

＜サブメニュー画面＞

サブメニュー画面から戻るには【Esc】を押します。

2 **設定値を変更します。**

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し、[↵]で決定します。

キー操作一覧

BIOSの画面では、次のキーを使って操作を行うことができます。

キー	操作できる内容
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了するか確認するメッセージを表示します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-] [Fn]+[+]	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[F1]	ヘルプを表示します。
[F7]	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に戻します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。
[PgUp] [Fn]+[Home]	表示されているメニューの中の最初の項目に移動します。
[PgDn] [Fn]+[End]	表示されているメニュー画面の中の最後の項目に移動します。

▶設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 **F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。**

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。変更しない場合は［Cancel］を選択して ↵ を押します。**

次のような場合は、Load Optimal Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

- **セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合**

  メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にするため、「Security」メニュー画面－「TPM Security」を「Enabled」に設定します。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

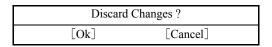
p.188「Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 **F7 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。**

2 **［Ok］を選択して ↵ を押します。**
変更しない場合は［Cancel］を選択して ↵ を押します。

4

Passwordの設定

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。
パスワードの設定は、「BIOS Setupユーティリティの設定項目」の「Security」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。
p.191 「Securityメニュー画面」

パスワード入力時の注意

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更

管理者パスワードおよびユーザーパスワードを設定すると、「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。
管理者パスワードおよび、ユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

1 **「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。**

```
Enter New Password
```

2 **パスワードを入力し、↵ を押します。**

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、↵を押します。

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で↵を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。

4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で↵を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

管理者パスワードの削除

管理者パスワードを削除する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」起動時に管理者パスワードを入力してください。

1 「Change Supervisor Password」を選択して↵を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

2 何も入力せずに↵を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
［Ok］

3 「Ok」が選択された状態で↵を押します。

「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されます。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。

ユーザーパスワードの削除

1 「Clear User Password」を選択して、↵を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して、↵を押します。「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。

これで、ユーザーパスワードが削除されます。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」の終了方法には、次の2つがあります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

1 Esc を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
- Advancedメニュー画面
- Securityメニュー画面
- Powerメニュー画面
- Bootメニュー画面
- Exitメニュー画面

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付と時刻の設定を行います。
設定項目と詳細は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

AMI BIOS	＊Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	＊Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	＊Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	＊Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

4

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目と詳細は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Primary IDE Slave/ Secondary IDE Master/ Secondary IDE Slave	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled（初期値）：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange Fn & Ctrl key		キーボードの左下側にあるFnキーと、その隣にあるCtrlキーの機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Enabled：FnキーとCtrlキーの機能を入れ替えます。 Disabled（初期値）：FnキーとCtrlキーの機能を入れ替えません。
Exchange R-Alt & Win APP key		キーボードの右下側にあるAltキーと、その隣にあるアプリケーションキーの機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Enabled：Altキーとアプリケーションキーの機能を入れ替えます。 Disabled（初期値）：Altキーとアプリケーションキーの機能を入れ替えません。

▶Securityメニュー画面

システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.186「Passwordの設定」をご覧ください。

「Security」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Not Installed：パスワードが設定されていません。 Installed　：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーが「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスすることを4段階で制限します。 No Access　：「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。 View Only　：「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited　：「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 Full Access：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 [↵]を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。 [↵]を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup　：「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always：「BIOS Setupユーティリティ」やWindows起動時、省電力モードから復帰時にパスワード入力を要求します。

<table>
<tr><td colspan="2">Boot Sector Virus Protection</td><td>「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。書き込みを禁止すると、ウイルスによるHDDのブートセクタ（システム領域）への感染を防ぐことができます。
Disabled : 書き込みを許可します。
Enabled : 書き込みを禁止します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">TPM Security</td><td>セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。
Disabled : セキュリティチップを使用しません。
Enabled : セキュリティチップを使用します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">TPM Security Clear</td><td>「TPM Security」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化（消去）します。
初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップの初期化は、充分に注意し、お客様の責任において行ってください。
[↵]を押すと初期化確認ウィンドウが表示されます。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">I/O Interface Security
データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。
「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。</td><td>AUDIO/MODEM</td><td>FAX モデム機能およびサウンド機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
UNLOCKED : FAX 機能/サウンド機能の使用を可能にします。
LOCKED : FAX 機能/サウンド機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>LAN</td><td>ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
UNLOCKED : LAN 機能の使用を可能にします。
LOCKED : LAN 機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>Wireless LAN
（無線LAN搭載時のみ表示）</td><td>無線LAN 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
UNLOCKED : 無線LAN 機能の使用を可能にします。
LOCKED : 無線LAN 機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>Optical Disk Drive</td><td>光ディスクドライブ機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
UNLOCKED : 光ディスクドライブ機能の使用を可能にします。
LOCKED : 光ディスクドライブ機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>PC Card/SD/MS/
MMC/IEEE1394</td><td>PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
UNLOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にします。
LOCKED : PC カード/メモリカード/IEEE1394 機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td>USB</td><td>USB 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。
UNLOCKED : USB機能の使用を可能にします。
LOCKED : USB機能の使用を不可にします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">Hard Disk Protection</td><td>「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。内蔵HDD保護のパスワードの有効・無効を設定します。有効に設定すると「BIOS Setupユーティリティ」やWindows起動時に「Supervisor Password」（管理者パスワード）で設定したパスワードの入力を要求します。
Disabled : パスワード入力を要求しません。
Enabled : パスワード入力を要求します。</td></tr>
</table>

▶Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、バッテリのリフレッシュを行います。

Start Battery Calibration (バッテリのリフレッシュの実行)	バッテリのリフレッシュを行う場合に実行します。 p.66 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

▶Bootメニュー画面

Bootメニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する項目を設定します。
「Boot」メニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

＿＿は初期値
＊は項目表示のみ

Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Device」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「CD/DVD」です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Hard Drive」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面ー「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定すると表示されます。初期設定は「Realtek Boot Agent」です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 <u>Disabled</u>：無効にします。 Enabled　：有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		電源切断時やスタンバイ、休止時において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了し、ACアダプタを接続した状態でのみ使用可能です。 <u>Disabled</u>：設定しません。 Enabled　：設定します。

起動するドライブとは

「Boot」メニュー画面の「Boot Device Priority」では、順番にシステムを検出し、起動（boot）するドライブを設定しています。
コンピュータが、［1st Boot Device］、［2nd・・・］という順番でドライブを検出して、システムが見つかったドライブからシステムを起動します。
設定内容は、サブメニューに表示される項目を設定しなおすことで変更することができます。
サブメニューには、次のような項目が表示されます（購入時のシステム構成により異なります）。

- ●Removable Device（オプションのUSB FDDなどを指します。）
- ●CD/DVD（接続されている光ディスクドライブ）
- ●Hard Drive（接続されているHDD）
- ●Disabled（検出するドライブなどを割り付けないときに設定します。）

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。Exitメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

BIOS Setupユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange Fn & Ctrl key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Exchange R-Alt & Win APP key	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
*User Access Level		No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
*Password Check		Setup	Always	Setup	Always
Boot Sector Virus Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
TPM Security		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
I/O Interface Security	AUDIO/MODEM	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	Optical Disk Drive	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	PC Card/SD/MS/ MMC/IEEE1394	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
	USB	UNLOCKED	LOCKED	UNLOCKED	LOCKED
Hard Disk Protection		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

＊「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device				
	2nd Boot Device				
	3rd Boot Device				
	4th Boot Device				
Onboard LAN Boot ROM		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

第5章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリ」ともいいます。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

ウイルス対策ソフトウェアの更新サービス

本機に添付のウイルス対策ソフトウェア「Norton AntiVirus」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入してウイルス定義ファイルの更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。
『ウイルス対策ソフトウェアをご使用の前に』

消去禁止領域

Windowsのインストール中に、「消去禁止領域」は絶対に削除しないでください。「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどが登録されているため、削除すると再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールの際には、次のメディアが必要です。

- **Windows XPリカバリCD**
  Windows XPが登録されているCD-ROMです。
- **リカバリツールCD**
  本体ドライバやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが登録されているCD-ROMです。
- **そのほか必要なメディア**
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に登録されています。
専用のメディアは添付されていません。
p.27 「添付されているソフトウェア」
HDDの消去禁止領域に登録されているドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

Windows
p.202 「Windows XPのインストール」

⬇

リカバリツール
p.207 「リカバリツールのインストール」

⬇

本体ドライバ
p.207 「本体ドライバのインストール」

ここでインストールされるドライバ類は、インストール画面で確認できます。

⬇

Bluetoothドライバ
p.209 「Bluetoothドライバのインストール」

⬇

Adobe Reader
p.210 「Adobe Readerのインストール」

⬇

5

▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

コンピュータの管理者（Administrator）権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者（Administrator）」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：USB FDD（オプション）
Cドライブ　：HDD
Dドライブ　：光ディスクドライブ

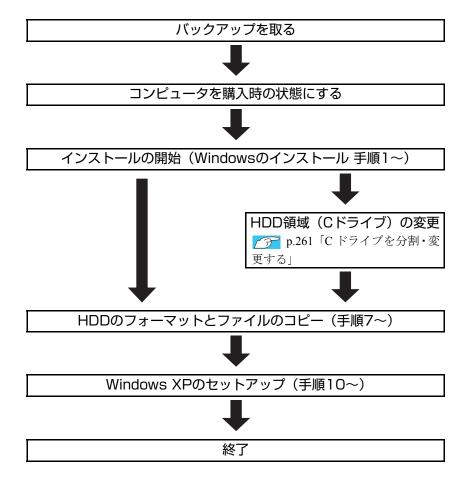
各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと設定した事項が、元に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

p.203「バックアップを取る」

Windows XPのインストール

インストールの流れ

Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.203 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。

HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、p.258 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- ネットワークやモデムの設定
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- Internet Explorerの「お気に入り」、Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」
  p.249 「データのバックアップ方法」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- セキュリティチップユーティリティの設定
  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。
  『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』－「Windowsを再インストールする前に」
- 重要なデータ
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータのバックアップを念のため行うことをおすすめします。
  バックアップの方法は、下記で詳しく紹介しています。

  「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ」－「よくある質問」－「操作・設定方法」

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。コンピュータを購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows XPのインストール

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

1 **Windowsが起動した状態で、「Windows　XPリカバリCD」を光ディスクドライブにセットします。**

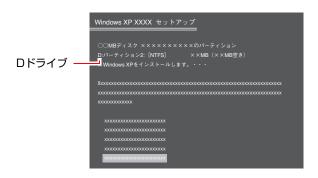
「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の［終了］をクリックし、画面を閉じてください。
ここからはインストールを行いません。

2 **［スタート］－［終了オプション］－［再起動］をクリックして、コンピュータを再起動します。**

5

3 **起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順4の画面が表示されるまで少し時間がかかります。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

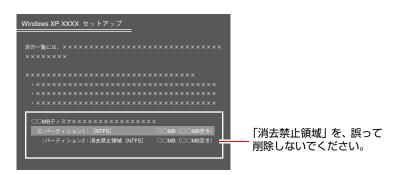
4 **HDD を分割している場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず Esc を押します。HDDを分割していない場合は、手順５に進みます。**

上の画面では必ず Esc を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。↵ を押してしまうと、DドライブにWindowsがインストールされるため、Dドライブに登録されているデータはすべて消えてしまうので注意してください。

5 **「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜領域変更を行う場合＞

p.259 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

Cドライブが選択されていることを確認し ↵ を押します。

画面下方に、HDD領域の一覧が表示されます。このうち、「消去禁止領域」は、本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

6 **HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら C を押します。**

HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので手順7に進みます。

7 **「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して ↵ を押します。**

「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、Cドライブに Windowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

8 **「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、F を押します。**

9 **フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。**

再起動してから「Windows XP ライセンス契約」が表示されるまでに、少し時間がかかります。

10 **「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。**

「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

11 **「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、［次へ］をクリックします。**

「名前」は必ず入力してください。

12 **「コンピュータ名…」と表示されたら、必要な項目を入力して［次へ］をクリックします。**

☞ p.47 「セットアップ中に入力する項目について」

13 **「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認して［次へ］をクリックします。**

コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。

14 **Windows XP Professionalをお使いの場合は、「ワークグループまたはドメイン名」と表示されます。必要な項目を入力して［次へ］をクリックします。**

- ネットワークに接続する場合

  「ワークグループ」または、「ドメイン名」を入力します。

- ネットワークに接続しない場合

  「このコンピュータはネットワーク上にないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。

Windows XP Home Editionをお使いの場合や、購入時の構成によっては表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。

15 **再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。**

16 **「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。**

17 **「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の⇨をクリックします。**

18 **「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の⇨をクリックします。**

インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。

19 **「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある▷▷(省略)をクリックします。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

20 **「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて⇨をクリックします。**

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

21 **「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して⇨をクリックします。**

ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。

22 **「設定が完了しました」と表示されたら、⇨をクリックします。**

23 **Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。**

これでWindows XPのインストールは終了です。

24 **手順5でHDD領域(Cドライブ)を変更した場合は、「未使用の領域」に領域(パーティション)の作成を行います。**

領域(パーティション)の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行っても構いません。

☞ p.262 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。
正しくセットされると自動的に「リカバリツールセットアップへようこそ」画面が表示されます。

1 「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。

正しくセットされると自動的に「リカバリツールセットアップへようこそ」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] ―「マイコンピュータ」―「EPSON_CD」をダブルクリックします。

2 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了すると、デスクトップ上に次のアイコンが表示されます。
「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出してください。

▶本体ドライバのインストール

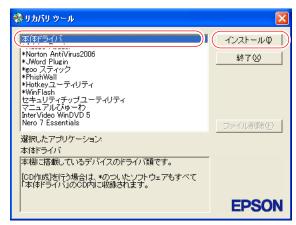
本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。
インストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

5

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**

手順4の画面が表示されるまでには、数分かかります。

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

4 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。**

5 **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには、十数分かかります。

6 **「インストールが完了しました」と表示されたら、［OK］をクリックします。**

7 **「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して［PC再起動］をクリックします。**

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは終了です。

リカバリツールの［ファイル削除］の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で［ファイル削除］が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。［ファイル削除］をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

Bluetoothドライバのインストール

Bluetoothを使うためのBluetoothドライバをインストールします。
インストール手順は次のとおりです。

Bluetoothドライバのインストールは、Bluetooth機能を有効にした状態で行ってください。
p.107 「Bluetooth 機能の ON/OFF 切替」

1 Bluetooth機能がONになっているか確認します。Bluetooth状態ランプが消灯している場合は、Bluetoothキーを押してBluetooth機能をONにしてください。

p.107 「Bluetooth機能のON/OFF切替」

Bluetooth機能をONにした場合、「新しいハードウェアの検出ウイザードの開始」画面が表示されたら、［キャンセル］をクリックします。

2 デスクトップ上の［リカバリツール］アイコンをダブルクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Bluetoothドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「セットアップ言語の選択」画面が表示されたら、「日本語」が選択されていることを確認し、［OK］をクリックします。

6 「Bluetooth・・・ウィザードへようこそ」と表示されたら、［次へ］をクリックします。

7 「使用許諾契約」と表示されたら、内容をよくお読みになり「使用許諾契約の条項に同意します。」にチェックを付け、［次へ］をクリックします。

8 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。

9 「Bluetooth用ドライバのインストール・・・」と表示されたら、［同意する］にチェックをつけ、［OK］をクリックします。

10 「Install Shieldウィザードを完了しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。

11 「Bluetooth Stack for WindowsのInstaller情報」画面が表示されたら、内容を確認して、［はい］をクリックします。

Windowsが再起動したら、Bluetoothドライバのインストールは終了です。

▶Adobe Readerのインストール

PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェア「Adobe Reader」のインストールとセットアップを行います。

インストール

「Adobe Reader」のインストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して[インストール]をクリックします。**

4 **「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

5 **「Adobe Reader…－Japaneseのセットアップへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

6 **「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

7 **「プログラムをインストールする準備ができました・・・」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。

8 **「セットアップの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**

続いて「Adobe Reader」のセットアップを行います。

セットアップ

インストールが終了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「Adobe Reader 使用許諾契約書」画面が表示されたら、「言語を選択」が「日本語」になっていることを確認します。**

3 **「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、「Adobe Reader」は使用できません。

4 **「Adobe Reader」が起動します。**

以上で、「Adobe Reader」のセットアップは終了です。

「Adobe Reader」では、起動時に、新しい機能の追加などを自動的に行う「重要なアップデートの自動化」画面が表示されることがあります。この場合は、「Adobe Reader」を最新に保つために、[はい] をクリックします。「重要なアップデートの自動化」を行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

▶ウイルス対策ソフトウェアのインストール

本機に添付のウイルス対策ソフトウェア「Norton AntiVirus」をインストールします。本機に添付の『ウイルス対策ソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。
市販のウイルス対策ソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶マニュアルびゅーわのインストール

「マニュアルびゅーわ」のインストールは、次の手順で行います。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
3. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して [インストール] をクリックします。**
4. **「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**
5. **「インストール準備の完了」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
6. **「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら、[完了] をクリックします。**
   これで「マニュアルびゅーわ」のインストールは終了です。

5

Nero 7 Essentialsのインストール

「Nero 7 Essentials」は、書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時に添付されています。
Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。

4 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。

5 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

WinDVDのインストール

「WinDVD」のインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD …」を選択して [インストール] をクリックします。

4 「WinDVDセットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」のインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「ようこそJWord　Plugin　…」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」のインストールは、次の手順で行います。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。

3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して［インストール］をクリックします。

4 「インストールが完了しました。」と表示されたら、［OK］をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは終了です。

5

▶そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

☞ p.258 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用する場合は、BIOSの設定を変更し、セキュリティチップユーティリティをインストールする必要があります。詳しくは、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

フィッシング対策ソフトウェアのインストール

フィッシング対策ソフトウェア「PhishWall」を使用する場合は、「Phish Wall」のインストールを行います。インストール方法については、本機に添付の『PhishWall取扱説明書』をご覧ください。

Hotkeyユーティリティのインストール

「Hotkeyユーティリティ」のインストールは、次の手順で行います。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Hotkeyユーティリティ」を選択して[インストール]をクリックします。**

4 **「設定言語の選択」画面が表示されたら、「日本語」が選択されていることを確認し、[OK]をクリックします。**

5 **「EPSON Hotkey用の…へようこそ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。**

6 **「インストール先の選択」と表示されたら、[次へ]をクリックします。**

7 **「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。**

これで、Hotkeyユーティリティのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

ネットワークの設定

ネットワーク（有線LAN）や無線LAN（無線LAN搭載時のみ）を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.128「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.129「無線LANを使う（無線LAN搭載時のみ）」

モデムの設定

次の方法でダイヤル情報の設定を行ってください。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」をクリックします。**

2 **「所在地情報」画面が表示されたら、「国名/地域名」、「市外局番/エリアコード」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。**

3 **「電話とモデムのオプション」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、［プロパティ］をクリックします。**

4 **「（モデムの名称）のプロパティ」画面が表示されたら、「モデム」タブをクリックし、「ダイヤルの管理」項目ー「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。**

これでダイヤル情報の設定は終了です。
インターネットに接続する場合は、このあとダイヤルアップ接続の設定が必要です。

p.149「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」

5

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

- Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元
  p.249「データのバックアップ方法」
- 重要なデータ
  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

そのほかのソフトウェアのインストール

そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法についてはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

Windows Update

再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。
Windowsの再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動で「Windows Update」を行ってください。

p.49 「Windows Updateを行う」

DEP機能の設定

DEP機能で、セキュリティを強化する設定に変更していた場合は、再度設定してください。

p.167 「さらにセキュリティを強化する」

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

● 困ったときに

「困ったときに」にはトラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

p.219「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」には、当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。

「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。

トラブルが起きた場合の対処の流れ

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。
対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

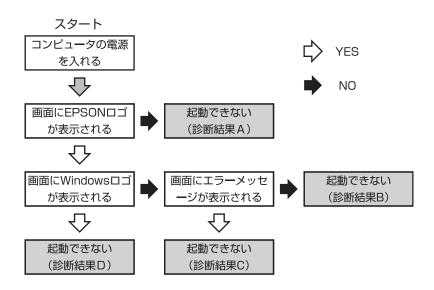
不具合一覧

LAN（インターネット接続）の不具合

LAN（インターネット接続）の不具合については 「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

p.218 「とらぶる解決ナビ」

▶コンピュータが起動できない場合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断表をご覧ください。各問いにお答えいただき、たどりついた結果の指示に従ってください。

診断結果

診断結果A

次の対処を順に行ってみてください。

(1) → (2) → (6) → (13) → (14)

p.221 「対処方法」

診断結果B

次の対処を順に行ってみてください。

(7) → (9) → (10) → (11) → (12) → (14)

p.221 「対処方法」

診断結果C

表示されるメッセージによって対処方法が異なります。次の対処を順に行ってみてください。

C-1

「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(14)

p.221 「対処方法」

C-2

「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

(3) → (4) → (5) → (11) → (12) → (14)

p.221 「対処方法」

C-3

上記以外のメッセージが表示された場合

(3) → (6) → (11) → (12) → (14)

p.221 「対処方法」

診断結果D

次の対処を順に行ってみてください。

(6) → (7) → (8) → (9) → (10) → (12) → (14)

p.221 「対処方法」

対処方法

(1) 出力先を切り替える…A

外部ディスプレイへの出力が有効になっていると、LCD画面に何も表示されません。Fn+F8を押し出力先を切り替えることで、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する…A

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータの電源を切ってからコンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

電源プラグはコンセントに接続してください。

バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続して使用してください。

p.40 「ACアダプタを接続する」

(3) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す…C-2・C-3

外付けのFDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが装着されていると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して問題が解決されるかどうか確認してください。また、起動に使用するドライブの優先順位の設定でHDD を最優先に設定しておくことで、外付けのFDD やUSB 機器を接続した状態でもコンピュータを起動できるようになります。

p.193 「Bootメニュー画面」

6

(4) しばらく放置する…C-2

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。結露した水分が自然に蒸発するまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れなおしてみてください。

(5) 認識と接続を確認する…C-2

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。
   p.181 「BIOS Setupユーティリティの起動」
2. 「Advancedメニュー画面」で「Primary IDE Master」の設定を確認します。
   正常に認識されている場合は、HDDの型番が表示され、正常に認識できていない場合は、「Not Detected」、「None」などと表示されます。
   BIOSで正常に認識できていない場合は、(11)(12)の作業を行ってみてください。

(6) 周辺機器および増設した装置を取り外す…A・B・C-3・D

プリンタやスキャナなどの周辺機器など、ご購入後にお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) セーフモードで起動する…B・D

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.244 「セーフモードでの起動」

(8) 常駐ソフトを停止する…D

常駐ソフトとは、システム稼働中、常にメモリ上に存在しているソフトです。これらのソフトが稼働していることにより現象が発生している可能性があるため、セーフモードで起動できた場合は、ソフトを一時的に停止させ、正常に動作するか確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] －「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
5. Windows 起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。
   ※常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

(9) システムの復元を行う…B・D

セーフモードで起動できた場合は「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.244 「システムの復元」

(10) 前回正常起動時の構成で起動する…B・D

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。
前回正常起動時の構成で起動する手順は次のとおりです。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. EPSONと表示され、消えた直後に[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
   キーを押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、[↑]もしくは[↓]を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、[↵]を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して[↵]を押します。

(11) BIOSの設定を初期値に戻す…B・C-2・C-3

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻して問題が解決されるか確認してください。

p.185 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(12) Windowsを再インストールする…B・C-3・C-4・D

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って問題が解決されるかどうか確認してください。

p.197 「ソフトウェアの再インストール」

(13) 電源保護回路を解除する…A

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（マウスを含む）を外して電源コードを抜いた後、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

(14) カスタマーサービスセンターに問い合わせる…A・B・C・D

対処を行っても不具合が改善されない場合は、故障の可能性が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターへお問い合わせください。

コンピュータ本体の不具合

電源を切ってからもう一度入れなおす場合には、20 秒程度の間隔を開けてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

- バッテリだけで使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。
- バッテリ、ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。
  p.35 「コンピュータの設置」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品の電源コードを電源コンセントに接続して確認してください。
- バッテリ、ACアダプタ、電源コンセントに問題がない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または警告音（ビープ音）が鳴って起動しない。

確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象が発生する前の状態に戻してください。
- 起動時の自己診断テスト終了後（Windowsの起動中）に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 起動時の自己診断テスト中に警告メッセージが表示されたり警告音（ビープ音）が鳴って止まったりする場合は、警告メッセージを確認するか、警告音

（ビープ音）の回数をメモしてください。自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
p.246 「警告メッセージ/警告音」

● BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。
p.185 「設定値をもとに戻すには」

● コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。
Press F1 to continue, F2 to enter SETUP
F2 を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常は、そのまま「Save Changes and Exit」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
p.181 「BIOS Setupユーティリティの操作」
F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter New Password:

Hard Drive Locked, enter password:

確認と対処

●「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。
p.191 「Securityメニュー画面」

● パスワードを正しく入力しているか確認してください。Num Lk の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。
p.74 「キーボードを使う」

● パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

6

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windowsが起動しない。

●Operating System not found
●DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
●Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key

確認と対処

- システムが登録されていないFDがオプションのUSB FDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

- USBフラッシュメモリなどの周辺機器をUSBコネクタに接続している場合は、いったん電源を切って周辺機器を取り外してから、再度電源を入れてください。

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないプログラムをタスクマネージャで終了させます。
  応答のないプログラムを終了させる手順は、次のとおりです。
  p.56「ハングアップしたときは」

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってください。

- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に、Windowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。
  再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。
  ポイントとなる手順は、次のとおりです。
  - p.203「Windows XPのインストール」の手順4では必ず Esc を押す。
  - p.203「Windows XPのインストール」の手順5、p.259「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
  - p.203「Windows XPのインストール」の手順7、p.259「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない

確認と対処

- 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

- バッテリ残量が少なくなり、ローバッテリ省電力モードに入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰させてみてください。

- 省電力モードから復帰できない場合は、Ctrl + Alt + Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 省電力モード時にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl + Alt + Delete を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

6

バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。
- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電しなおしてください。
  p.66 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してください。
- 電源コンセントに問題がない場合は、AC アダプタまたは本機に問題があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用時間が短い。

確認と対処

- バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。完全放電してから充電しなおしてください。
  p.66 「バッテリ残量が正しく表示されないときは」
- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.69 「使用済みバッテリの取り扱い」

キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

● タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。

● アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

● プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。
p.224 「コンピュータ本体の不具合」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

● 直接入力モードで日本語を入力することはできません。
p.75 「文字を入力するには」

● Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。
Windows上で次のキーボードが選択されていることを確認してください。
101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

確認方法は、次のとおりです。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「キーボード」－「ハードウェア」タブをクリック

6

現象

[Fn]キーと[Ctrl]キーが機能しない。
[Alt]キーと[▤]キー（アプリケーションキー）が機能しない。

確認と対処

● [Fn]キーと[Ctrl]キーまたは[Alt]キーと[▤]キー（アプリケーションキー）の機能が入れ替わっている可能性があります。
＜[Fn]キーと[Ctrl]キーが機能しない場合＞
BIOSの設定で、「Advancedメニュー画面」の「Exchange Fn & Ctrl key」が「Enabled」になっていないか確認してください。
＜[Alt]キーと[▤]キー（アプリケーションキー）が機能しない場合＞
BIOSの設定で、「Advancedメニュー画面」の「Exchange R-Alt & Win APP key」が「Enabled」になっていないか確認してください。
p.78 「入力キーの機能の入れ替え」
p.190 「Advancedメニュー画面」

▶タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

● 手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしないか確認してください。

● LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。

● タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

● タッチパッドが無効になっていないか確認してください。タッチパッドキーを押してみてください。
p.72 「タッチパッド機能を無効にする」

▶LCDユニットの不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

● 画面の明るさを調節してください。[Fn]+[F5]/[Fn]+[F6]で調節できます。

☞ p.111 「LCDユニットの調整」

● バックライトが消灯していないか確認してください。[Fn]+[F7]を押してみてください。

☞ p.112 「バックライトの消灯」

● 省電力モードになっている可能性があります。キーボードまたはタッチパッドを操作してください。

☞ p.163 「省電力モードから復帰する」

● バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してもそのまま放置すると、スタンバイモードに移行します(購入時の設定)。ACアダプタを接続してください。

● コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

● 起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。警告音（ビープ音）が鳴った場合は、警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

☞ p.246 「警告メッセージ/警告音」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

● LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

☞ p.182 「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- 使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動しなおし、解像度を正しく選択してください。
  セーフモードで起動する方法は、次をご覧ください。
  p.244 「セーフモードでの起動」

HDDの不具合

現象

それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
  p.190 「Advancedメニュー画面」

現象

特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処

- ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

光ディスクドライブの不具合

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.124 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面に傷などがないか確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。
- セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

メディアをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

- セットしたメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や☒をクリックして、画面を閉じます。その後［スタート］－「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、［開く］を選択します。

現象

書き込み機能のある光ディスクドライブで、メディアに書き込みができない。またはエラーが発生する。

確認と対処

- 書き込み機能のある光ディスクドライブには、購入時にライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。光ディスクメディアの書き込みに関する不具合については、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Nero ユーザーガイド』を参照してください。

p.51 「インフォメーションメニューを使う」

● メディアへの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
p.90 「Nero 7 Essentialsの使い方」

● データの書き込みをドラッグアンドドロップで行えるメディアはCD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
p.90 「Nero 7 Essentialsの使い方」

●「InCD」でフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。
p.90 「Nero 7 Essentialsの使い方」

● 書き込み可能な光ディスクメディアへのデータ転送中に Windows が省電力モードに切り替わると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。
p.162 「時間経過で移行させない」

● お使いの光ディスクドライブで使用できるメディアかどうか確認してください。使用可能なメディアは、「マニュアルびゅーわ」に登録されている光ディスクドライブのPDFマニュアルを参照してください。

● 光ディスクメディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。

● 光ディスクメディアの表面に汚れやキズなどがないか確認してください。

● 光ディスクメディアに書き込み可能な残量があるか確認してください。

● ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。

● 光ディスクドライブとの相性によって、セットした光ディスクメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVD VIDEOの再生ができない。

確認と対処

- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。購入時には「WinDVD」がインストールされています。

- DVD VIDEOの再生に関する不具合は、「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」に登録されている『WinDVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
  p.51 「インフォメーションメニューを使う」

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。
  p.124 「音量の調節」

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。

▶無線LAN機能の不具合（無線LAN搭載時のみ）

6

現象

無線LAN機能が使用できない。

確認と対処

- 無線LAN機能がONになっているか確認してください。
  p.133 「無線LANのON/OFF切替」

- 無線 LAN の電波がほかの無線装置や家電製品などと干渉している可能性があります。電波に関する注意事項を確認してください。
  p.105 「電波に関する注意事項」

現象

無線LANユーティリティの「SSID」や「暗号化」に関する設定で、何を入力すればよいかわからない。

確認と対処

- AP側で設定した「SSID」や「暗号化」に関する情報を入力してください。
設定内容をAPに添付の取扱説明書を参照して、確認してください。

▶セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対処

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
「Security」メニュー画面－「TPM Security Clear」で［↵］を押します。表示されたセキュリティチップ設定の初期化ウィンドウで「OK」を選択します。
「OK」を選択後、「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。
p.191 「Securityメニュー画面」

▶ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムが停止（ハングアップ）する場合があります。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションのUSB FDDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- 「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
  p.211 「マニュアルびゅーわのインストール」

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」（情報バー）画面が表示される。

確認と対処

- 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）画面が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

● メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
Outlook Express の［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブー「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

● コンピュータを外部の不正な侵入から保護するため、セキュリティセンターでファイアウォールが有効に設定されていると、市販のネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
p.53 「セキュリティ対策を行う」
詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

● Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Mainメニュー画面」－「System Memory」でメモリ容量を確認してください。
p.181 「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.189 「Mainメニュー画面」

● 購入時から不具合がある場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象

PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処

● 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
p.94「PCカードを使う」

● PC カードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
p.94「PCカードを使う」

● PC カードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

● 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

● メモリカードがメモリカードスロットの仕様に対応しているか確認してください。
p.100「メモリカード使用時の注意」

▶内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音がしない。

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.124 「音量の調節」

- 内蔵スピーカの不良が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

▶インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書では、インストール手順中の光ディスクドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。光ディスクドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。光ディスクドライブのドライブレターを確認してください。光ディスクドライブのドライブレターの確認は「マイコンピュータ」で行うことができます。

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPリカバリCDを入れてもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブのブートの順位をHDDよりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Bootメニュー画面」でブートの優先順位を変更してください。
p.181「BIOS Setupユーティリティの操作」
p.193「Bootメニュー画面」

FAXモデムの不具合

現象

「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処

- 「モデムのプロパティ」で［詳細情報］または［モデムの照会］を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。
［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「診断」タブの［モデムの照会］をクリックします。

現象

インターネットへ接続できない

確認と対処

- モジュラコードが、モデムコネクタに接続されているかを確認してください。

- 次の場所で電話番号や、設定を再確認してください。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認してください。
［スタート］－「接続」－「接続先の名前」－［プロパティ］－［ダイヤル情報］

- 接続ユーザー名や、接続パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。
  - 全角の文字を使用していないか（全角文字は使用できません）。
  - 大文字と小文字を区別しているか。
  - 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。

6

- 接続ユーザー名とメールアカウントを混同していないか。
- 接続パスワードとメールパスワードを混同していないか。

● DNS（ネーム）サーバのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認してください。正しくない場合は修正してください。

次の手順でDNS（ネーム）サーバのIPアドレスを確認してください。

(1) ［スタート］－「接続」－「接続名（任意の名前）」－［プロパティ］をクリックします。
(2)「ネットワーク」タブ－「インターネットプロトコル（TCP/IP）」－［プロパティ］でDNS（ネーム）サーバのアドレスを確認してください。

● 原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

● 接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、アクセスポイントを変更することによってインターネットへ接続できる場合もあります。同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合はプロバイダの電話番号を変更してみてください。

● 次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。
- 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- プロバイダのサーバが停止している。

現象

V.92、K56flex通信方式で通信できない。

確認と対処

● 回線状況によって、V.92、K56flex通信方式で接続できない場合があります。V.92、K56flex通信方式のほかにはx2方式があります。x2方式のモデムとは、V.34通信方式（33600bps）以下で接続します。またお使いになっている最寄りの電話局の交換機から、プロバイダなどの相手側までの電話回線の通信経路が、すべてデジタル化されている必要があります。デジタルからアナログへの交換機切り替えが、この通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、V.92、K56flex通信方式で接続することができます。

● PBX 回線では、V.92、K56flex 通信方式では接続できません。V.34 通信方式（33600bps）以下で接続します。

現象

V.92、K56flex、V.34通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処

- V.92、K56flex、V.34通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデム機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

▶プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

- プリンタの電源および印刷するための準備が完了しているか確認してください。

- プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

- Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。

2 EPSONと表示され、消えた直後に[F5]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。

[F5]を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、[↵]を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータを他のメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 ［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。

2 「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、［次へ］をクリックします。

3 **「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。**

復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されるので、まず日付けを選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧より、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。

4 **「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

コンピュータが再起動します。

5 **再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 **[スタート] ー「すべてのプログラム」ー「アクセサリ」ー「システムツール」ー「システムの復元」を選択します。**

2 **「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、[次へ] をクリックします。**

3 **「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、[作成] をクリックします。**

4 **「新しい復元ポイント」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。**

以上で復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、警告音（ビープ音）が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明および対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS　Setupユーティリティ」－「Bootメニュー画面」－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音（ビープ音）

警告音の回数	警告の内容	説明および対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ方法

ここでは、データのバックアップと復元方法について説明します。
Windowsの再インストールを行うと、HDDに保存されているデータは消去されます。必要なデータはWindowsの再インストールを行う前にバックアップを取っておいてください。

バックアップから復元までの流れは次のとおりです。

バックアップフォルダの作成
p.249 「バックアップフォルダの作成」

バックアップ（データをバックアップフォルダに保存する）
p.250 「Internet Explorer「お気に入り」のバックアップと復元」
p.251 「Outlook Express「アドレス帳」のバックアップと復元」
p.252 「Outlook Express「メールデータ」のバックアップと復元」

バックアップフォルダを光ディスクメディアなどに保存する

Windowsの再インストール

復元（光ディスクメディアなどに保存したデータを復元する）
p.250 「Internet Explorer「お気に入り」のバックアップと復元」
p.251 「Outlook Express「アドレス帳」のバックアップと復元」
p.252 「Outlook Express「メールデータ」のバックアップと復元」

バックアップフォルダの作成

はじめにバックアップデータを保存するためのフォルダを作成します。バックアップデータはここで作成したフォルダにいったん保存し、その後、光ディスクメディアなどに書き込んで保存します。
バックアップフォルダの作成方法は次のとおりです。

1 **フォルダを作りたい場所（デスクトップ上など）で右クリックし、「新規作成」－「フォルダ」をクリックします。**
「新しいフォルダ」が作成されます。

2 **「新しいフォルダ」の名前を「バックアップ」などに変更します。**

Internet Explorer「お気に入り」のバックアップと復元

Internet Explorerの「お気に入り」のバックアップおよび復元方法は次のとおりです。

バックアップ

1. Internet Explorerを起動します。
2. [ファイル] − [インポートおよびエクスポート] を選択します。
3. 「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
4. 「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、「お気に入りのエクスポート」を選択して、[次へ] をクリックします。
5. 「お気に入りのエクスポート元のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、[次へ] をクリックします。
6. 「お気に入りのエクスポート先」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスにエクスポートする」にチェックが付いていることを確認します。
7. テキストボックスに作成したバックアップフォルダの場所を入力し、[次へ] をクリックします。
   保存するファイルの拡張子は「htm」とします。
8. 「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
9. 「お気に入りのエクスポートに成功しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
   これで「お気に入り」のバックアップは完了です。

復元

1. Internet Explorer を起動します。
2. [ファイル] − [インポートおよびエクスポート] を選択します。
3. 「インポート/エクスポート ウィザードへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
4. 「インポート/エクスポートの選択」と表示されたら、[お気に入りのインポート] を選択して、[次へ] をクリックします。

5 「お気に入りのインポート元」と表示されたら、「ファイルまたはアドレスからインポートする」にチェックが付いていることを確認します。

6 バックアップしたデータが保存されているメディアをセットし、テキストボックスにバックアップしたファイルの場所を入力して、[次へ]をクリックします。

7 「お気に入りのインポート先のフォルダ」と表示されたら、「Favorites」が選択されていることを確認して、[次へ]をクリックします。

8 「インポート/エクスポート ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。

9 「お気に入りのインポートに成功しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
これでバックアップした「お気に入り」の復元は完了です。

▶Outlook Express「アドレス帳」のバックアップと復元

Outlook Expressの「アドレス帳」のバックアップおよび復元方法は次のとおりです。

バックアップ

1 Outlook Expressを起動します。

2 [ツール]－[アドレス帳]を選択します。

3 「アドレス帳」画面が表示されたら、[ファイル]－[エクスポート]－[アドレス帳]を選択します。

4 「エクスポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、作成したバックアップフォルダの場所を選択します。

5 「ファイル名」ボックスに任意のファイル名を入力し、[保存]をクリックします。

6 「アドレス帳が次の場所にエクスポートされました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。
これでアドレス帳のバックアップは完了です。

復元

1 Outlook Expressを起動します。

2 ［ファイル］－［インポート］－［アドレス帳］を選択します。

3 「インポートするアドレス帳ファイルの選択」画面が表示されたら、バックアップしたデータが保存されているメディアをセットし、バックアップしたファイルを選択して、［開く］をクリックします。

4 「インポートは完了しました。」と表示されたら［OK］をクリックします。

これでバックアップしたアドレス帳の復元は完了です。

バックアップしたアドレス帳の復元

複数のユーザーでOutlook Expressを使用している場合、複数のユーザーがログオンしている状態でアドレス帳の復元を行うと、ログオンしているユーザーすべてのアドレス帳にアドレスが登録されてしまいます。

1ユーザーのみがログオンしている状態で、アドレス帳のバックアップ、復元を行い、それをユーザーごとに繰り返せば、アドレス帳を分けることができます。

▶Outlook Express「メールデータ」のバックアップと復元

Outlook Expressの「メールデータ」のバックアップおよび復元方法は次のとおりです。

バックアップ

1 Outlook Expressを起動します。

2 メールデータが保存されているフォルダの場所を確認します。

(1) ［ツール］－［オプション］を選択します。
(2) 「オプション」画面が表示されたら、「メンテナンス」タブ－［保存フォルダ］をクリックします。
(3) 「保存場所」画面が表示されたら、テキストボックスに記述されたフォルダの場所を選択し、Ctrl＋Cを押してコピーします。
(4) ［キャンセル］をクリックします。
(5) 「オプション」画面の［キャンセル］をクリックします。

3 Outlook Expressを終了します。

4 メールデータが保存されているフォルダを表示します。

(1)［スタート］－［ファイル名を指定して実行］を選択します。
(2)「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、手順2－（3）でコピーしたフォルダの場所を Ctrl ＋ V を押して貼り付けます。
(3)［OK］をクリックします。
(4)「Outlook Express」画面が表示されたら、［上へ］をクリックします。

5 「Microsoft」画面が表示されたら、「Outlook Express」フォルダを作成したバックアップフォルダにコピーします。

これでメールデータのバックアップは完了です。

復元

1 Outlook Expressを起動します。

2 ［ファイル］－［インポート］－［メッセージ］を選択します。

3 「プログラムの選択」と表示されたら、「Microsoft Outlook Express …」を選択して、［次へ］をクリックします。

4 「Outlook Express …からインポート」画面が表示されたら、「Outlook Express …ストアディレクトリからメールをインポートする」にチェックを付けて、［OK］をクリックします。

5 「メッセージの場所」と表示されたら、バックアップしたデータが保存されているメディアをセットし、データの場所を入力して［次へ］をクリックします。

6 「フォルダの選択」と表示されたら、「すべてのフォルダ」か、「選択されたフォルダ」のどちらかにチェックを付け、［次へ］をクリックします。

すべてのメールデータを復元したい場合は「すべてのフォルダ」、選択したデータのみ復元したい場合は「選択されたフォルダ」をクリックしてください。

7 「インポートの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

これでバックアップしたメールデータの復元は完了です。

バックアップCDの作成

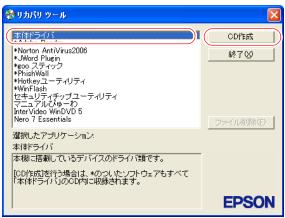
ここでは、リカバリツールを使用して、HDDの消去禁止領域に登録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データをCDメディアにバックアップ（コピー）する方法について説明します。
作成したバックアップCDを使用すると、CDから本体ドライバやソフトウェアをインストールできます。
書き込み機能のない光ディスクドライブ搭載の場合、バックアップCDの作成はできません。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

3 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して［CD作成］をクリックします。**
バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順4の「書き込み設定」画面が表示されるまでに数分時間がかかります。

<イメージ>

項目名の前に「＊」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

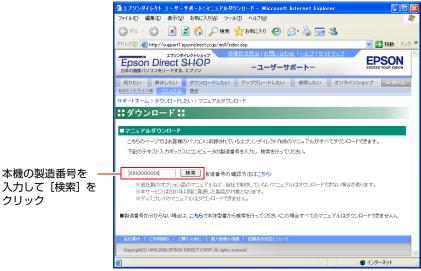
4 **「書き込み設定」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。**

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDを光ディスクドライブにセットすると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
インストールを開始するには、画面に表示された一覧から、本体ドライバは「インストール」を、そのほかのソフトウェアはソフトウェア名をクリックします。
以降の手順は、p.199「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページから、お使いのコンピュータ、周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。ダウンロードできるマニュアルは、エプソンダイレクト作成のマニュアルのみです。

ユーザーサポートページのアドレスは、次のとおりです。
http://epsondirect.jp/support/

※ 画面の内容は予告なく変更する場合があります。

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」上で見ることはできません。各マニュアルのファイルを開いてご覧ください。

ユーザーサポートページからは、ほかにも次のデータをダウンロードできます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- 壁紙

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。

- セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定が必要です。パスワードを忘れてしまった場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。
- セキュリティ機能を使用する際は、十分に注意し、お客様の責任において暗号化を行ってください。
  セキュリティ機能の使用方法については、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず、本機に添付の『セキュリティ機能設定ガイド』をご覧ください。
セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

- BIOSの設定

セキュリティ機能を使用するには、BIOSで次の項目の設定を「Enabled」に変更します。
「Security」メニュー画面 ー「TPM Security」

「Disabled」設定時　：　セキュリティ機能を使用しません。
「Enabled」設定時　：　セキュリティ機能を使用します。

購入時は、「Disabled」に設定されています。
p.191 「Securityメニュー画面」

- セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行ってください。
インストール方法は、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

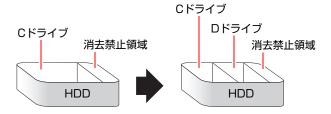
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

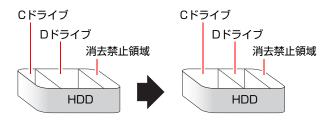
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも呼びます。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

消去禁止領域
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどの再インストールのためのデータが登録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

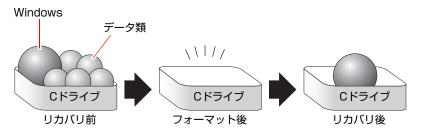
<ドライブのサイズを変更する>
例：Cドライブのサイズを大きくします。

この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

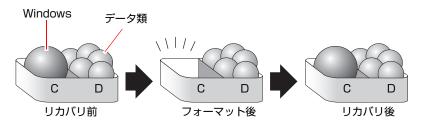
▶Cドライブを分割・変更する

Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

● メリット
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>

リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>

たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

HDD領域を分割したHDDのリカバリをする場合は、万一に備えてDドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット
- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。
Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.262 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除して「未使用の領域」にする

必要に応じてCドライブ以外のドライブを削除する
Cドライブの容量を増やしたい場合は、ほかのドライブを削除して「未使用の領域」を増やします。

未使用の領域に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

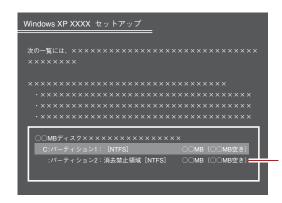
Windowsのインストールを完了させる

「ディスクの管理」で「未使用の領域」にドライブを作成する
Cドライブ作成後に残っている「未使用の領域」をドライブにします。
p.262 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割･変更をする場合はWindowsのインストールが必要です。p.203「Windows XPをインストールする」の手順5～7を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

＜p.203 「Windows XPのインストール」の手順5～7の読み替え＞

1 **「次の一覧には、このコンピュータ上の・・・」と表示されたらCドライブを選択し、［D］（削除）を押します。**

一覧に表示されている「消去禁止領域」は本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

2 **「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、［↵］を押します。**

3 **「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら［L］を押します。**

ドライブが未使用の領域になります。

4 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜Cドライブを分割したい場合＞

(1) 「未使用の領域」を選択して［C］を押します。
手順5に進みます。

＜Cドライブの容量を増やしたい場合＞

(1) 「D」や「E」などのパーティション（ドライブ）を選択して［D］（削除）を押します。

(2) 手順2、3を実行します。
選択したパーティションが「未使用の領域」になります。

(3) 「未使用の領域」を選択して［C］を押します。
手順5に進みます。

5 **Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ（MB）」に表示されている数字を［Back space］で削除し、任意の数値を入力して［↵］を押します。**

Cドライブには、最低でも3GB（3000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C：パーティション1（未フォーマット）」を選択して［↵］を押します。**

未使用の領域は、ここではフォーマットできません。インストール後「ディスクの管理」で行います。

7 **「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して［↵］を押します。**

p.203 「Windows XPのインストール」の手順8に進みます。

Windowsのインストールが完了したら、「ディスクの管理」で未使用の領域をドライブにします。

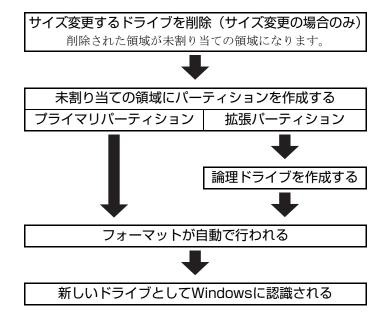
▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）を作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Dドライブ以降のドライブのサイズを変更する場合。
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未使用の領域」をドライブにして使用する場合。

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.259「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

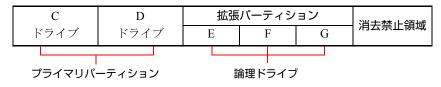
ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。
ドライブの作成の流れは次のとおりです。

HDD内の「未割り当ての領域（未使用の領域）」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、p.264「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。
ドライブの削除方法は、p.266「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

パーティションとは

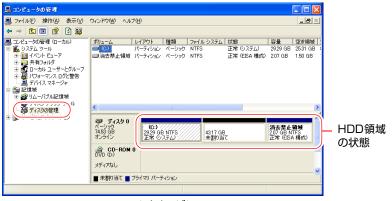
- Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と呼びます。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
  そのうち拡張パーティションは、最大で1つです。また、消去禁止領域もパーティションの1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせて作成すると、次のように1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>

HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。ここでは拡張パーティションの作成方法を説明します。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。**

<イメージ>

3 **パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。**

4 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

5 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「拡張パーティション」を選択して [次へ] をクリックします。**
プライマリパーティションを選択した場合は、手順6の次にp.265「論理ドライブの作成」の手順5に移ります。

6 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して [次へ] をクリックします。**

7 **「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。**
拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブの作成

拡張パーティション内に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

1 **「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。**

2 **「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

3 **「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

4 **「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。**
複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

5 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」に任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。**
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。

6 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**
表示されている設定値を変更する必要はありません。

7 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。

8 ［完了］をクリックすると自動的にフォーマットが行われます。

フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1〜8の作業を繰り返します。

▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。

2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。

<イメージ>

3 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。

4 「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。

論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。空き領域をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

☞ p.264「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタ、およびバッテリからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本機のモデムではモデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア（Internet ExplorerやOutlook Expressなど）でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。
次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は次の場所にあります。

［スタート］－「コントロールパネル」－「プリンタとその他のハードウェア」－「電話とモデムのオプション」－「モデム」タブ－［プロパティ］－「詳細設定」タブの「追加設定」

<table>
<tr><th>現　象</th><th>AT コマンド</th></tr>
<tr><td>ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。</td><td>「ATM0」</td></tr>
<tr><td>ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。</td><td>「ATL0」</td></tr>
<tr><td>「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td><td>「ATX3」</td></tr>
<tr><td>モデムの設定を工場出荷時の状態にする。</td><td>「AT&F」</td></tr>
<tr><td>ダイヤル回線（パルスダイヤル）でダイヤルする。</td><td>「ATP」</td></tr>
<tr><td>プッシュ回線（トーンダイヤル）でダイヤルする。</td><td>「ATT」</td></tr>
<tr><td>「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td><td rowspan="3">「AT+MS=34」（V34）
「AT+MS=92」（V92）
「AT+MS=K56FLEX」（K56flex）
使用したい通信方式に応じて設定。</td></tr>
<tr><td>接続が不安定（10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう）。</td></tr>
<tr><td>パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。</td></tr>
</table>

複数のコマンドを入力したいときは2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例：ATM0X3　（ATM0+ATX3）

機能仕様一覧

項目		仕様
CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ
BIOS		AMI BIOS
チップセット		インテル945PM Express Chipset +ICH7-M
セキュリティチップ	対応規格	TMP 1.2
	コントローラ	Infineon
メインメモリ		PC2-5300 SODIMM（DDR2-667 SDRAM）を使用して最大2GBまで搭載可能
ビデオ		FireGL V5200　ビデオメモリ：512MB
		Radeon X1600　ビデオメモリ：256MB＊1 / 512MB
画面表示	液晶タイプ	15.4型WSXGA+ カラー液晶 1680×1050ピクセル True Color（32ビット）＊2
		15.4型WUXGA カラー液晶 1920×1200ピクセル True Color （32ビット）＊2
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応　Realtek製ALC660
キーボード		日本語対応87キー（Windowsキー付き）、インスタントキー 5個
ポインティングデバイス		タッチパッド（スクロール機能付き）
記憶装置	HDD	2.5型S-ATA HDD1台内蔵
	光ディスクドライブ	購入時の仕様により異なります。
インタフェース	USB	4（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	TV出力	1（S端子）
	LAN	1（RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T自動認識）＊3
	FAXモデム	1（RJ-11 K56flex V.92対応）＊3
	サウンド	マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1またはS/P DIF×1
	ディスプレイ	VGAコネクタ（アナログ、ミニD-SUB 15ピン）×1
		DVI-Dコネクタ（デジタル　DVI-D 24ピン）×1
PCカードスロット		1　TypeII　PC Card Standard準拠 （CardBus 対応）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%＊4、1.5A （50/60Hz）、出力19V、4.74A、90W　重量約450g（含電源コード）
	リチウムイオンバッテリパック	容量 4800mAh　Li-ion 11.1V　動作時間 約3.0時間 JEITA＊5測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体：約365（幅）× 270（奥行）× 28.7～45.5（高さ）mm（突起部除く）
質量		本体：約2.93kg＊5（バッテリパック装着時）
消費電力		110W（最大）／2.5W（スタンバイ時）／1.3W（電源オフ時）

＊1 メインメモリの容量によって異なります。
＊2 認定番号ラベルはコンピュータの底面に貼付されています。
＊3 認定番号ラベルはコンピュータの底面に貼付されています。
＊4 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
＊5 システム構成や使用環境により異なります。

Bluetooth*1

準拠規格	Bluetooth標準規格 Ver2.0+EDR
通信距離（規格値）	10m*2
転送速度（規格値）	3Mbps

＊1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：BT-183
認証番号　：003NY05095 0000
＊2 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。推奨される通信距離は3m以内です。

無線LAN*1（搭載時のみ）

準拠規格	IEEE802.11a　：ARIB STD-T71（小電力データ通信システム規格） （J52/W52/W53） 5GHz　無線LAN標準プロトコル IEEE802.11b/g：ARIB STD-T66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
データ転送速度（規格値）＊2	802.11a/g: 54Mbps 802.11b　: 11Mbps
伝送方式	OFDM方式（IEEE802.11a/g） DS-SS方式（IEEE802.11b）
伝送距離（理論値）	111Mbps：40m（IEEE802.11b） 54Mbps　：25m（IEEE802.11g）/12m（IEEE802.11a） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時＊3
セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応
使用無線チャンネル	IEEE802.11a：34/38/42/46ch（J52）、36/40/44/48ch（W52）、52/56/60/64ch（W53） IEEE802.11b：1～13ch IEEE802.11g：1～13ch

＊1 本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：WM3945ABG
認証番号　：003NY05120 0209、003WY05061 0210
＊2 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
＊3 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windowsなどの使用条件によって短くなります。

索引

数字

A

B

C

D

F

G

H

I

え

お

か

き

く

け

こ

さ

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

む

め

も

ゆ

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。

有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://www.epson.jp/ecology/

Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよび他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。

この技術の使用にはMacrovision Corporationの認可が必要です。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。

＊ Macrovision 著作権保護技術とは、DVD などの映像コピー防止に関する技術です。

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、Windowsは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

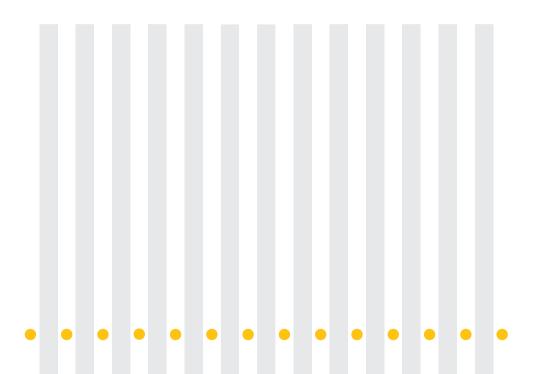
Bluetooth(R)はBluetooth SIG, Inc. の商標です。

Liquid View、Liquid Viewロゴ、Liquid SurfおよびLiquid Surfロゴは、米国ポートレイトディスプレイ社の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

PRINTED WITH SOY INK 大豆油インキを使用しています。

R100 このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。

C77452001　07.05-10(SO)

epsondirect.jp

EPSON DIRECT CORPORATION